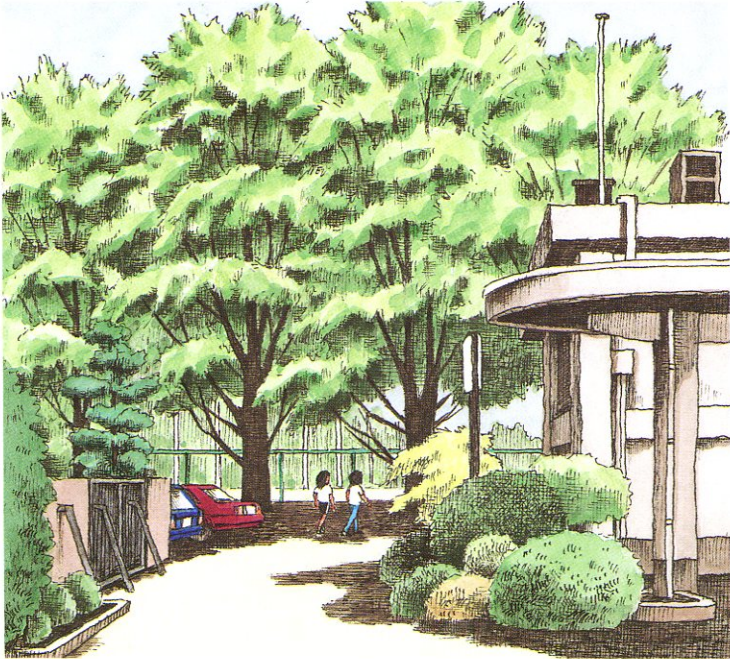


# 広陵

草創百十年 創立七十周年記念



第25号

1996. 7. 20

神奈川県立秦野高等学校同窓会会報



造林作業中の秦中生 (昭和17年頃)

造林作業に向かう秦高職員と生徒 (昭和32.3年頃)

# 同窓会会報第25号目次

表紙	題字	宮本 信義 (中5)
写真	「梶山フォトスタジオ」	横溝 英一 (中20)
		梶山 敏之 (高17)

総会のご案内・平成8年度事業計画	1
決算・予算案の報告	2
ごあいさつ	3
ごあいさつ	4
70周年実行委員会報告	4
支部だより	7
寄稿	8
秦高在職中の思い出	8
秦中・秦高に想う	10
母校から―進学カルテ	12
―部活動紹介―	14
同期会だより	16
醸金者のお願い	17
客員異動	18
70周年記念事業実行委員	19
70周年記念事業費醸金者名簿	20

# 平成 8 年度 秦野高校同窓会 ～ 総会 の 御 案 内 ～

日時：8月24日(土)

場所：なでしこ会館

秦野市今川町1-3 (秦野駅前)

Tel. 0463-82-6111

## 総会 日 程

P.M 1:30 受付

2:00 総会

- 7 年度事業報告及び決算報告
- 8 年度事業計画及び予算審議
- その他

## 総会のご案内

会長 小泉 功

平成8年度の総会は秦野駅前「なでしこ会館」で八月二十四日に開催されます。秦野支部の皆様が設置して頂きました。今年は70周年記念の年でございますので、どうか会員の皆様の多数のご参加をお願い申し上げます。

## 平成 7 年度 事業報告

- 4月15日(土) 役員会議
- 5月20日(土) 幹事会
- 7月1日(土) 三校(本校、大栗野、伊勢原) 同窓会連絡協議会
- 7月20日(木) 会報24号発行
- 8月27日(日) 同窓会総会(小田原商工会議所)
- 10月27日(金) 役員会議
- 11月16日(木) 造園整備
- 2月7日(水) 校内一万平米マラソン大会に賞品を贈る。
- 3月1日(金) 母校卒業式、新会員入会437名迎え入れる。
- ※右記の他、年間を通じ、慶弔、プラスチック部、各支部への助成などを行う。
- 5月～3月 激励費支給
- ・ 県大会ベスト8 (三千円支給) 陸上競技部 19名 弓道部 10名
- ・ 関東大会出場 (七千円支給) 水泳部 2名 かるた 4名
- ・ 全国大会出場 (二万円支給) 弓道部 1名 陸上部 19名
- ・ 陸上部 1名 かるた 1名

## 平成 8 年度 事業計画 (案)

- 一、幹事会、総会の開催
- 二、会報第25号の発行
- 三、会費納入の促進
- 四、支部育成強化
- 五、在籍生活動支援
- 七、70周年記念式典 10月25日(金)
- 八、記念造園の整備
- 九、造林調査
- 十、慶弔
- 九、その他

平成7年度 決算報告書

平成8年度 予算案

◎ 歳入の部

項目	7年度予算額	7年度決算額	増減(減-)
前年度繰越金	401,732	401,732	0
卒業生入会金	1,320,000	1,326,000	6,000
繰り入れ金	3,500,000	3,500,000	0
雑収入	120,000	221,142	101,142
合計	5,341,732	5,448,874	107,142

◎ 歳入の部

項目	8年度予算額	7年度予算額	増減(減-)
前年度繰越金	1,299,125	401,732	897,393
卒業生入会金	0	1,320,000	-1,320,000
繰り入れ金	4,000,000	3,500,000	500,000
雑収入	120,000	120,000	0
合計	5,419,125	5,341,732	77,393

◎ 歳出の部

項目	7年度予算額	7年度決算額	増減(超△)
会議費	520,000	525,063	-5,063
総会費	250,000	250,000	0
幹事会費	120,000	212,291	-92,291
委員会費	150,000	62,772	87,228
事業費	3,802,000	3,030,820	671,180
支部育成費	280,000	270,000	10,000
在校生活動振興費	600,000	412,050	187,950
ブラバン助成費	100,000	100,000	0
造林調査費	40,000	0	40,000
森林組合賦課金	2,000	2,000	0
造園維持費	80,000	80,000	0
慶弔費	150,000	60,000	90,000
会報発行費	2,400,000	2,056,770	343,230
70周年記念事業費	150,000	50,000	100,000
事務費	650,000	593,866	56,134
事務局費	300,000	473,266	-173,266
通信費	200,000	71,750	128,250
印刷費	150,000	48,850	101,150
予備費	369,732	0	369,732
次年度繰越金	なし	1,299,125	1,299,125
合計	5,341,732	5,448,874	-107,142

◎ 歳出の部

項目	8年度予算額	7年度予算額	増減(減△)
会議費	520,000	520,000	0
総会費	250,000	250,000	0
幹事会費	120,000	120,000	0
委員会費	150,000	150,000	0
事業費	3,792,000	3,802,000	-10,000
支部育成費	270,000	280,000	-10,000
在校生活動振興費	600,000	600,000	0
ブラバン助成費	100,000	100,000	0
造林調査費	40,000	40,000	0
森林組合賦課金	2,000	2,000	0
造園維持費	80,000	80,000	0
慶弔費	150,000	150,000	0
会報発行費	2,400,000	2,400,000	0
70周年記念事業費	50,000	150,000	-100,000
事務費	650,000	650,000	0
事務局費	300,000	300,000	0
通信費	200,000	200,000	0
印刷費	150,000	150,000	0
予備費	457,125	369,732	87,393
合計	5,419,125	5,341,732	77,393

同窓会費積立金	
繰り越し金	20,010,214
終身会費	4,970,000
利息	3,661
繰り出し金	-3,500,000
手数料	-3,480
残高	21,480,395

同窓会費積立金より  
70周年事業貸し出し 2,000,000

同窓会館積立金	
7年度までの積立額	14,504,667
利息	258,942
残高	14,763,609

同窓会館積立金より  
70周年事業貸し出し 5,500,000

終身会費納入状況(平成5年7月～平成7年3月)  
192人 = 19,200,000円

終身会費納入状況(平成7年4月～平成8年3月)  
497人 = 4,970,000円(うち平成8年3月卒437人)

# ごあいさつ

草創百十周年・創立七十周年を迎えて

同窓会会長 小泉 功



郡共立、育英学校等と所と名称を変え、大正十五年、広畑の地に組合立奈珂中学校として居を定め更に、昭和十年県立秦野中学校、二十三年には県立秦野高校となり今日に至っております。

会員の皆様には益々お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

前、高橋会長の後を承った私は、試行錯誤を繰り返しながら大過なく過ごせましたことは、同窓会役員をはじめ、校長先生、校内幹事諸先生のご理解ご支援のお陰であり、本年の創立記念事業の推進は、実行委員諸兄の綿密なスケジュールによるものであり、併せて深く感謝申し上げます。

尋ねれば、明治五年小田原英学校として建学され、五郡共立、三

明治開花の始め郷土の先輩方が「教育は国家百年の大計、郷土の繁栄の基」と遠大な夢を育まれたことからスタートして、今日あることを思う時、先人の識見の高さに賛辞を呈するのみであります。

しかも知勇兼備、質実剛健の建学の向上心が、今日も生きていることは誠に頼もしい限りであります。

創立記念として新設体育館の緞帳が完納されました。また、同窓会林（報国造林）での汗と夢の結晶の証しとして、造林の一角に記

念の銘石建立の計画も実行委員会が計画されており、時には往時の思い出の場として、森林浴や生徒の活用のもとでも期待されま

す。隣接の県立「菜の花公園」が近代的山岳公園として改装中であり新名所となろうことを思う時、秦高の造林もまた話題的となりましょう。その他各実行委員会でも各種計画を推進中であり、十月二十五日には記念式典、パーティもあり同窓生多数の参加を期待します。その折には、改装された学校前の桜並木と道路、校舎の棟より高いプラタナスの大木や諸施設も昔の夢を懐古させること

でしよう。さて、事業完全推進の為の募金集めには同窓会先輩、有志、支部組織、学校関係者あげて協力頂いております。ことに深甚の謝意を表するものであります。

しかし、あと二ヶ月余と迫った今日、事業完遂の為の予算額確保には目標との差がかなりあり、誠

に心苦しいことですが、重ねてのお願いを申し上げます。平成八年度の総会を迎えるに当たっては、七年度の経過を見直しながら予算を組み立て、充実した内容にすべきものと考えております。

同窓会林の地主側との契約更新、三高校連絡会に参加して秦野高校との比較反省、終身会費制度の理解と周知。万余の会員に関心を持って頂ける様な運営等を含めて、長期、短期の検討も必要かと思えます。いずれも役員はじめ会員皆様のご理解とご指導が大切です。

平成八年度の総会は秦野支部が担当で八月二十四日に、創立記念式典は十月二十五日に学校で行うことが決まっております。



## 株式会社 小田原魚市場

小田原市早川 1-10-1

TEL0465 (22) 8131

広 沢 富 正 (中9回)

# 節ありて竹強し

学校長 實方正



流れる伏流水として生徒に伝えられている事に、多くの教職員が感銘を受けている所です。

節ありて竹強し、年輪あつて木太し。

同窓会の皆様には、益々御健勝のうちに、御活躍の事と推察致します。母校は、いよいよ草創百十年、創立七十周年記念事業の年を迎えました。明治十九年の三郡共立学校から大正時代の育英学校の四十年の歴史。そして、大正十五年現在の地広畑が丘に奈珂中学として根をおろしてより七十年の星霜は、多くの人材を育て、地域の信頼を集める学校へと発展して参りました。質実剛健、文武両道の校風や校訓が、時代を越え、また時には、形を変えて脈々と地下を

協力をここにお願い申し上げます。「校風が生徒を育て、生徒が校風を引継ぎ、かつ発展させて行く」と言われています。この周年事業が契機となつて、校風が強化されれば、この上ない慶びと考えております。さて、奉高の特色は、何

## 70周年実行委員会報告

### 会計委員会

#### 青木利之(高4回)

と申しても同窓会活動にあります。総会、地区別会、労務別会、学年同窓会、クラス同窓会、そして部活動同窓会に至る迄であり、後輩の大きな励み、話題となつております。同窓会の今後の発展を心から祈念しご挨拶とさせて頂きます。貸して下さい。

募金に一段の御協力を、七十周年事業別委員会の中の会計委員会の一員として委嘱されたのは、平成六年二月一九日の事で、杉山健(元同窓会長)氏を委員長として二十四名で構成され発足しました。

今回は体育館の緞帳・学校施設の充実援助、同窓会林記念碑建立・会員名簿の発行・資料収集等、記念事業として使われます。この記念すべき七十周年の行事にあたり、同窓会として着々と準備を進めています。十年間の区切りの中に新しい同窓会の姿を発見し、更なる発展の礎になるために、学校と一丸となり成功させたいと願っています。

徒会の手で進められております。同窓会、PTA、そして学校の共同事業として草創百十年、創立七十周年事業が準備される事に深い意義を感じ、自らの力を入る昨今であります。よろしくご理解とご

千円。方法は六十周年と同じで各地区担当委員の集金、振替用紙銀行口座利用ときました。募金は平成六年八月総会後から始まり、早くも一年九ヶ月を過ぎまし

### 施設整備委員会

榎本圭治(高2回)

### 同窓会林記念碑委員会

久保寺 富男(高11回)

施設整備委員会は三十名の委員で構成され、平成四年十月初会議以来七回の会議を開催して来ました。記念事業の大きな核とも云うべき学校施設の整備充実を図る事業を審議する委員会ですのでその責任の重大さを痛感しています。

記念事業の当初予算額は二千五百万円、その中で当委員会には一千二百五十万円、各種事業の中で最高額で全体の五十パーセントの予算が計上されました。このうち体育館の緞帳五百五十万円は既に設置済みですので残り実質七百円の枠内で学校から出された要望品目について記念事業に相応しい、効率性の高いものは何かと協議して来ました。

中途、予定の醸金目標額が下回る事が確実視され役員会で決つた変更額が提示され七百万円から五百万円、若しくは三百五十万円

と大幅に減額されました。試算で目標額がダウンしたのであれば当初予算額で割当てられた各種事業費は当然ダウン率で減額されるべきものではないかとの意見を持ちますが、(減額できない性質、要素を有する事業もあるが)この委員会では当初予算から50パーセントカットされた中で学校から出された要望品目、記念誌補助、球技場整備、吹奏楽器購入、体育館ステージ照明設備、視聴覚関係整備の五項目について再度必要度の高いものから順位をつけ取捨選択しなければならぬ苦渋な作業が残っています。



秦高生の夢と期待を担い、美林となつた十四町八畝、メートル法で云えば、十四万八〇〇平方メートルの同窓会林である。昭和十四年、中郡北秦野村村有地、カラキゴ、岩の台にまたがる同地を借り受け、報国造林として生徒の手で植林されたものである。以来五十年、今日までの歩みを後世に残すべく、秦高創立七十周年記念事業の一つとして、記念碑の建立が企画された。この事は既に前号で報告されて周知の通りであるが、この程、その具体的なプランがまとまつたのでお知らせする。施行業者は、神奈川大谷石材商会で、経済連、農協の指定業者として、良心的価格と高い技術力で定評がある。材は、根府川石で高さ一八〇センチ、巾七十七センチ、縦形で、杉の木をイメージした。表面は自然のままの肌、「神奈川県立秦

野高等学校同窓会林之碑」の文字をバランス良く二行に刻み、裏面は額縁磨きで縁起を約六〇〇字刻む。文言は記念碑委員会で作成する。揮毫は、本校卒業生、高四回卒の書家中原宏氏の予定である。設置場所は県立菜ノ花台公園の西側、昨年、造林委員会によって、枝打ちが為された、檜林の直近である。



のれんと味

営直元網  
年26明治創業

# 変る海

広沢富正(中9回)

DARUMA 小田原市民会館前 ☎ 0465-22-4128(代)

# 式典委員会

浅田忠男(高6回)

# 会員名簿委員会

関野勇(中9回)

平成六年五月を皮切りに数回にわたり委員会を開催し討議して参りましたが、昨年十二月の会合に於いて役員会や実行委員会より付託を受けた当委員会での重要案件を慎重審議し結論を得ました。

③その他  
c 諸事情から、懇親会でのアトラクションは行なわなない。

私達の母校は平成八年十月に創立七〇周年草創一〇〇年を迎えるに当り、これを記念として、創立七十年記念版名簿を改訂発行することとなり、それにつき名簿委員を御推薦いただき平成五年より発行の準備に着手し、ここに発行するはこびになりました。この間いろいろの御意見、御希望等をおきまして、同窓生の絆を強く感じま

①日程について  
a 学校と同時開催に決定  
平成八年十月二十五日(金)  
b 総会との関係

a 他の学校との比較・検討  
b 前六十周年との比較・検討  
等々多岐にわたり活発な討議が行なわれ、先輩・後輩の域を越えて意義ある委員会でした。委員会の結論は、二月に開催された同窓会役員会に報告し承認されました。

また、前回の六十周年記念行事との比較・検討の結果、前回は同窓会関係者の招待者は委員長までの八名でしたが、今回の七十周年記念式典には学校側のご理解を得て、日頃ご協力を頂いている実行委員の全員に招待状を差し上げることになりました。

②内容の検討  
a 学校と同時開催なので、式典・祝賀会は学校主体形で行い、同窓会は黒子役で応援する。  
b 但し、記念事業の発表・目録贈呈などで同窓会長の出番をくぐらう。

また、前回の六十周年記念行事との比較・検討の結果、前回は同窓会関係者の招待者は委員長までの八名でしたが、今回の七十周年記念式典には学校側のご理解を得て、日頃ご協力を頂いている実行委員の全員に招待状を差し上げることになりました。

創立六十周年記念事業で泰野高等学校史が発刊され、学校の歴史が明らかにされましたが、資料のうち育英学校時代の歴史をもう少し明らかにしたいということで、資料を収集するために今回七十周年記念事業として資料収集委員会が組織され現在資料を収集してい

## 資料収集委員会よりお願い

石塚秀雄(中10回)

**育英学校・寮中・寮高に関する資料を捜しています。**

大阪在住の須山和成氏(高3回)から、母校第六代校長三河幸信先生と谷響共著の「短歌の表現と文法」(非凡閣刊、昭和21年、

名の同窓生のこととて、物故者、移転、転居不明等ありまして、委員並びに校内幹事の諸先生、学校当局、先輩、後輩の諸兄の御理解と御協力を今更乍ら有難く感謝し、ここにあらためて、御礼を申し上げます。最後に広畑ヶ丘の校舎・プラタナスの大木、阿美利の嶺に啓示と栄光を、吾等同窓生として、いつまでも忘れずに生きましよう。

一人でも多くの人に参加して、記念式典が賑やかに且盛大に挙行できますようお願いいたします。



月刊誌「短歌研究」(第八巻、第五号)、「詩歌」(昭和26年5月号)を寄贈して頂きました。「詩歌」の後記に「夕暮歌碑に就いて」として、弘法山に歌碑が建つまでの経緯を夕暮自身が記している。貴重な書籍をありがとうございます。昭和女子大学甲斐知恵子教授から、夕暮研究の成果「近代文学研究叢書」が寄贈されました。

# 支部だより

## 秦野支部

七十周年の醸金活動については支部目標額達成の方途を役員会で再三協議した。本部の醸金方法は会報誌「広陵」に趣旨書と振替用紙を入れるものであったが、これではどの程度の協力が得られるか

秦野高校同窓会資料室では、現在、育英時代の資料と、昭和20年代の秦中、秦高の写真、その他の資料を捜しております。お手元にごございましたらぜひご連絡下さいますようお願い致します。

\*

疑問視する役員の声が多くあった。秦野支部としては、会員一人一人に足で募金活動をする方法を探り役員不在の地域については振替用紙をもつてこれに代えることとした。平成八年三月現在では役員による募金方法では約三百四十一万円振替によるもの約二百六十五万計五百五十七万円が目標額達成率は四四・五パーセントの低調な結果となった。この状況を踏まえ、過去六十周年の際好実績を残された先輩役員の意見を伺いながら第二次の醸金活動を開始した。再度役員に依頼することは止め、

支部会員の醸金状況を地区毎に洗い出し二十周年の時の割合をして相当な額を納め今回復れている会員を役員が訪問することとした。なお六地区のうち北地区は目標額を超え達成率百二十パーセントである。

榎本圭治(高2回)

## 伊勢原支部

早いもので3年前から活動を始めた70周年が、いよいよ本年10月に迫りました。

伊勢原支部でも去る3月31日に本部小泉会長を迎え役員会を開催し3月現在の各支部醸金状況を聞き当支部の状況を踏まえ最後の活動を全員で確認しました。しかし50・60周年当時の広陵配布、年会費集金と云った地区組織が今はあまり機能しなかったのは事実であり(会報郵送・終身会費制に変わる)今後課題を残しました。その中で支部役員皆様の尽力には改めて感謝し又支部会員の

皆様には醸金を通じ大変御協力頂き本当にありがとうございます。最後に、当支部長喜多実氏(高3)が4月1日付で本部副支部長に就任するに当り後任とし、不肖私(賀川)がお引き受けすることになり副支部長矢作典西氏(高3)岩崎武氏(高6)他多士濟々の役員の方々(紙面の都合上ご紹介出来ず恐縮)と支部運営に当たります。どうぞよろしく。

賀川義光(高6回)

## 小田原支部

校風について

学区制がひかれて以来当支部はその圏外に置かれ新しい卒業生は昭和56年以後皆無と云つてよい。学区内にある秦野、伊勢原地区は大勢居り羨ましい。今は一人でも多く掘り起すことが大事なことです。昨年夏小田原で全校同窓会が開催された折、南足柄市在住の関操様(高四卒)から「有志が集ま

総合寝具・室内装飾  
卸売・小売

# 株式会社 平塚ハマフォーム商会

平塚市明石町23番34号 TEL (0463) 21-3600(代) FAX (0463) 23-3601

鈴木栄一(高第2回卒)

り支部作りに努めたい」との話があり、以来地区の皆様の努力と協力で四月十三日支部結成をする旨の通知が小泉会長、広沢副会長と私の所において当日は設立総会に来賓として招待され総会は終始非の打ちどころなく和気藹々のうちに終了しました。私の支部内には足柄上・下・小田原市で八百数十名がそれぞれ地区別に特色のある然も内容の充実した育成も考えなければならず、今日、一万七千余名を数える全同窓生を考える時、出来るだけ早い時期に然るべき機関にお計りして基本構想をお示し下さった上でそれぞれ発足を願いたい。七十周年記念事業の年に当り会の強化対策として敬意とその努力を称え、本校も又県内に於て総ての面で充実して居り然も持続していることは私共にとつてこれに勝るものはありません。今その校風について面白い充実した同窓会を作るために……。

柳田 敏雄(中12回)



## 秦高在職中の思い出

### 秦野高校の思い出

中根 三郎

(昭和38年～58年)

私は生徒急増期の昭和三十八年から、大井高校に転勤するまでの二十年間勤務させて頂きました。

科目は理科のうち主として地学を担当しました。週二時間(二単位科目)で、担当時数の関係から毎年八クラス宛授業を持ちました。二十一年間で教えた生徒は七千名を越えています。

授業は岩石分類、天気図地質図の見方、作り方等実習に力を入れました。一番の思い出は十数年にわたり毎年夏休、クラス単位で野外地質実習を行った事です。生徒は一日で済みますが、引率する側はクラスの数だけ連続して山行き

をする訳で、疲れもしますが楽しい行事でもありました。参加された皆さん、どんな感想をお持ちでしょうか。

昭和二十年旧制秦中に入学し、その後の学制改革により併設中学校、高校と六年間広畑丘に通い、卒業した関係上、同窓会には校内幹事とし、主として会員関係の仕事を致しました。住所変更や資料整理、会員カードの整備、名簿発行等に相当時間をかけました。電話による確認作業は家に帰つても十時頃まで続き、親戚等から電話はいつも話し中で通じないと苦情を言われた事も再々でした。

中と転退学者名簿を完成させました。昭和十七年頃から終戦直後は特に動きが多く、苦心した事を思い出します。

人生の割と長い年月を過ごさせて戴いた広畑丘は、私にとつて第二の故郷でもあります。秦野高校の発展と、皆様の御健勝を願いつつ筆をおきます。

懐旧の想い、走馬灯のように脳裏に浮かんで、却つて、書きたいこともほやけてしまい、結果的には新鮮味もなく、月並みのことになつてしまふような気がする。

その一、秦野高校着任後、最初クラス担任をした学年の卒業式を迎えるに当たつて、一つの問題に遭遇した事である。その頃は安保養約反対を旗印に大学紛争が、多かれ少なかれ多くの大学に見られた。その余波は高等学校にも波及し、いろいろの面で緊張が

### 思い出の一つ

配島 成光

(昭和41年～52年)

# 石田工業所・石田アパート

石田 憲 正 (高7) 秦野市桜町 2-3-1

TEL・FAX0463 (81) 1267

高まつていた。折も折東大医学部の登録医制反対ストが発端となつた「東大闘争」は70年代学生運動の象徴となり、安田講堂攻防のテレビ中継は多くの人々に強い衝撃を与えた。それが、そのまま当時の生徒運動の導火線となり、体制批判・伝統批判となつて現われ、卒業生総代の答辞の件で、要望があると一部生徒の代表から、申し入れがあつた。

答辞作成委員を決め、文案作成その代表が答辞を述べるといふこと、答辞の骨子として、政治批判社会批判も加えたい。それによつて果立ち行く生徒に、社会・政治の関心を高める必要があるといふことであつた。これには啞然とした。勿論、形式的な答辞作成過程は問題ではないが、内容的な面では、少くとも学校教育の場では到底考えられることではなく、政治の場で議論するようなことを難しいことは交えて主張するものであつた。しかも、応接室で二時間

も議論し、なお平行線であつた。専門用語を乱発し、抵抗した。しかし、最終的には円満に一件落着したことである。その学年の生徒には文学博士小川直之君をはじめご厄介頂く方が多く、感謝している。

### 男子高校の神話時代

菅谷市朗

(昭和43年〜昭和49年)

私が秦高を去つた昭和四十九年は、秦高が「県下唯一の県立男子普通高」と、常と呼ばれていた最後の年であつた。だから当時の秦高には、良くも悪くも男子高校としての特色が現われていた。

高校の目標は、いかに多くの生徒を、いかに希望の大学に合格させるかであるという理念が、略純一に信ぜられていた時代でもあつた。私たちの担任した四十七年度卒業生で、早大に二十四名合格(それは当時の通年平均の倍増)したのでははじめ、他の大学にも平

均を大きく上廻る合格者を出したのは、その目標が一定の達成を見たのだと思われる。部活動も盛んであつた。野球部は、四十七年夏の県大会で準優勝した。陸上競技部のインターハイでの活躍、テニス部の全国大会出場、柔・剣道部の関東大会出場など、素晴らしい成果を示していた。

しかし四十年代は、戦後の価値観が揺らぎ出した時代でもあつた。全共闘による大学紛争が全国的に拡がり、高校にも飛火した。昭和四十四年十月、秦高でも、定例の全校集会が、生徒側の要求により突然の学校糾弾集会に変わり、約三時間続いた。その後教師生徒間の話し合いにより多くの改革がなされた。まさに時代は曲り角であつたのだ。日本も秦野高校も。私は幾つかの高校を経験したが、秦高時代が最も懐かしい。私たちは恐らく、男子高校の神話時

代を経過しつつあつたのだと思われる。

### 表紙スケッチ

「大木」  
横溝 英一

正面玄関の側に、三、四本のイチヨウの大木が緑陰をつくつている。私が入学した頃(一九四三年)、講堂のそばに立つていた細い若木がこれであるときいて、にわかには信じ難かつた。半世紀もたつたのである。人間だつて年をとるわけだな。と、つい考えたまう。



ご相談お気軽にどうぞ  
 不動産登記・会社登記・その他登記手続全般  
**草山司法書士事務所**  
 司法書士 草山弘道 (高10回)  
 秦野市曾屋21 ☎0463 (81) 1035

# 秦中・秦高に想う

## 大山の雄姿に想う

廣澤重正（中9回）

平成八年四月六日、母校の父兄会催行に当り、会長代理として出席致しまして、新入生に祝辞を述べ、卒業された暁には同窓生として、諸君の発展は基より母校の発展に協力をお願い申し上げました。久し振りに見た広畑ヶ丘の校舎は勿論半世紀以前とは大いに変わ

り、併し丹沢連峯を目前にして、学生当時軍事教練で度々登った大山が悠然とそびえ立つ雄姿に、過ぎし頃を思い起こし感慨無量になりました。

秦野曾屋の親戚から毎日学校へ徒歩で通い、その間服部先生の影響を受け、君塚先生の御指導に依り剣道に精進し、各対抗試合に参加特に体育祭には源氏の大将として参加した時の感激は忘れ得ぬ

思い出として脳裏に焼きついております。

現在は多くの同窓の方を始め、関係各位のお蔭で身に余る程の重要な役職をいただいておりますが、之も学生の傾心身を鍛錬された所以ではないかと思っております。

ここに教職員並びに同窓生諸氏のご精采を心より祈念致します。

（小田原商工会議所 会頭

小田原魚市場 社長

だるま料理店 会長 他）

## 阿夫利の山に啓示あり

鈴木勲二

（旧姓・小清水 中20回）

氣候温暖で、豊かな自然に恵まれた中井町井口に生れ育ち、大山の山ふところに抱かれた秦中に、十三歳から十八歳までの青春多感な五年間を学んだ。昭和十八年に入学し、敗戦までの三年間は、「勝ち抜く少国民」と煽てられ、勤労

にあった。入学早々、報国造林の学校の雑草刈り、二年生の夏、出征で労働力不足に悩む農家に泊り

込んでの援農動員、冬は米の増産対策の一環としての暗渠排水の土木作業、三年生になり、沖繩敗走、そして本土決戦に備ての偽裝陣地構築動員、敗戦直前の六月からは、横浜釜利谷にあつた海軍工廠（現横浜市大）での学徒動員では、連日連夜の空襲を避けての重労働、地下防空壕で玉音放送を聞いた。戦後の混乱とインフレのなか、墨を塗り使つた教科書、芋畑と化したテニスコートからの球音に、平和の訪れを実感した。卒業期には、修学旅行の話題すらない

時代、五年生の秋の学年日帰り遠足。奥湯河原から十国峠への徒歩により日金山山頂をめざした。誰となく「広畑ヶ丘空晴れて…」と校歌を口ずさみながら登つた記憶と、山頂の源実朝の「金槐集」の歌碑の前で撮つた記念写真が、秦中時代の懐しい思い出として、今

でもアルバムに残っている。（前埼玉県立浦和高等学校長 元全国高校長協会副会長）

## よき師、よき友に感謝

杉山公宏（高5回）

ウシ、ヤギ、イヌ、ネコ、タヌキ、リス、ウサギ、マウス、ニワトリ、ハト、コイ、キンギョなどの多くの賢い動物達と共に、私は楽しい少年時代を過ごしました。動物達への関心がさらに深まったのは、秦野高校に在学時のことでした。入学後間もなく、迷はず生物部に所属しました。ここではじめて、マウスの解剖をしました。

感動しました。そして、動物の体の構造や機能を、自分なりにある程度理解できるようになりました。充実した高校生活でした。

動物好きがますます高じて、日本獣医畜産大学獣医学科に入学しました。ここではじめて、動物医学である獣医学の教育や研究に触

れ、これらの深遠さを知りました。満足した大学生活でした。

時の流れは速いもので、高校を卒業して、四十余年が経過し、一昨年遺贈を迎えました。ご多分に漏れず、懐古的となりました。高校の同窓会に出席することが、楽しみにになりました。現職は、卒業した大学の獣医病理学の教授と学長です。動物達とのつき合いは、まだまだ未永く続くことでしょう。幸せな社会生活をしています。

生涯の業務の指標を与えていただいた高校時代のよき師、よき友に感謝し、「人間と動物が仲よく共存できる平和な世界」という願望を強調して、筆を置きます。

(日本獣医畜産大学学長)

### 卒業して二十年

能條正美・(高29回)

高校三年の時が五十周年、大学を卒業して落語家になり前座修業を終えて二ツ目になった昭和六十

一年が六十周年そして真打に昇進して二年目の今年七十周年、思えば秦高を卒業してから二十年も経ってしまったのだ。昨日まで大根(東海大学前)から毎日通っていたような気がします。私の年から本格的な男女共学となり二年三年生は男ばかり、まだ男子校の臭いが残っていました。今考えるところもつと勉強しておけばとも思いますが、充実した三年間だと思えます。剣道部と落語倶楽部に明け暮れた毎日、まさか、それが今の仕事になるとは、文化祭で寄席を開いたり五十周年の時格技場でOBの方の前で落語をしゃべったのを今でも思い出します。六十周年の時も諸先輩の前にして学校で落語をやらせて頂きました。学校公演でも二回ほど現役の生徒の前でやらせて頂きました。他の芸人さんからもいい学校だねと言われてうれいしい思いをしました。私の時代より蒙快さが少くなつたかという気はしますが、秦高の精神は皆

もつていると思います。三年間一万メートルで茶碗をもらい、皆勤賞をもらつたり、色々思い出もありますが、入学式の時込山先生がうたわれた校歌が今も耳の奥に残っています。何も恐れる事を知らず何事にも一生懸命打ち込んだ秦高時代を忘れずこれからも進んで行きたいと思つています。

(落語家・三遊亭遊巨)

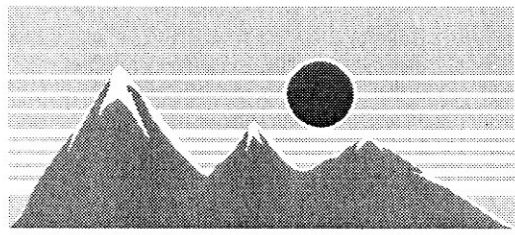
### 言葉は国境を越える。心とポエトリーディング

千葉節子(高31回)

またパスポートを手にする季節が始まつた。今年は昨年引き続きパリへ行く。秋に予定される日本大使館での公演のため。昨年N・Y・とパリで拙作「夢魔の庭Vol.1」の完成記念ライブを行なつたが、貴重な出会いを経験した。海外でも私のポエトリーディングは日本語で行なうが、詩に込められた「魂」が言葉の響きを通して伝わるのだろう。「言葉は国

境を越える」のである。コミュニケーションは心である。心なくしてはどんな語学の達人も使えない。高橋時代、私は勉強家ではなかったが、秦野の自然に心を洗われた。その経験は今に通じる。心の自然を表現する《詩》の世界に、通じているのである。

(詩人・エッセイスト)



あなたの気持ちが咲いています。花はコミュニケーション

## Flower & Green 花小代

はな さよ

代表取締役 戸田 稔(高校13回)  
伊勢原市伊勢原 1-2-1 ●駅前店 ☎0463-95-0491  
伊勢原市桜台 1-23-38 ●本店 ☎0463-96-1187(代)  
ご注文は——フリーダイヤル ☎0120-00-8734

寸描 母 校 から 進学カルテ

東大・京大に現役で合格  
中堅私立大学の軟化傾向  
私立大学への合格者増加

進路指導部 神原照夫

まだまだ続く不況の波、本校を卒業して進学していった生徒達の就職状況が気になります。

平成八年度センター試験志願者数は、過去最高の五十七万人を記録しました。その理由としては、「不況の影響」「三教科以下で受験可能な大学の増加」「私立大のセンター利用入試の増加」の三点が考えられます。本校ではセンター

志願者は例年並でしたが、国公立大学に現役で東大、京大、北大を始めとして三十名が合格、また浪人生も東北大、横国、阪大を始めとして二十二名が合格し、大いに健闘したと言えるでしょう。今年の傾向としては、同じ大学を前期試験で不合格になり、後期試験で合格した例がいくつもありました。国公立大を目指す者は、諦めずに後期試験まで頑張ることが必要だと思えます。

次に私立大や短大については、難関校である早稲田、上智、慶応の合格者は、例年より僅かに伸び

た程度でしたが、今年は中央、法政、青山などの中堅校への合格者が相当増えた結果、全体的にも私立大への合格者が増えています。また、短大は青山短大、明治短大看護系短大への合格者が増えています。これは各自が目的意識を持って着実に努力した結果だと思

います。推薦入試については、指定校推薦で早稲田、上智、青山を始めとして大学に四十三名、短大に十九名合格しました。一般推薦は厳しく大学、短大で五十七名が受験し

二十名の合格にとどまりましたが横国を始めとして三名が国公立大に推薦合格しました。専修、各種学校への進学者は、年々減少してきており、今年は十三名でした。進学先は、医療看護系が多く、各自、目的意識を持って進学して行きました。

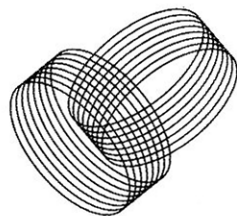
最後に就職についてですが、不況の影響で求人票を送ってきた会社数は、昨年が百九社でしたが今

年は七十九社に減少しました。本校では、国家公務員に一名と証券会社に一名の、二名の者が就職しました。

以上が今年の進路状況ですが、来年は、いよいよ新課程による入試が始まります。同窓会の皆様には、これからも後輩への温かいご声援をお願いしましてご報告とさせていただきます。

'96年度卒業生進路状況 人数( )内は%

	文		理		学年全体		
	男	女	男	女	男	女	計
大 学	56 (53)	88 (53)	76 (58)	19 (56)	132 (56)	107 (53)	239 (55)
短 大	0	57 (34)	0	2 (6)	0	59 (29)	59 (13)
専修各種	0	8 (5)	2 (2)	3 (9)	2 (1)	11 (5)	13 (3)
就 職	0	1	1	0	1	1	2
浪 人	50 (47)	13 (8)	52 (40)	10 (29)	102 (43)	23 (11)	125 (29)
卒業生数	106	167	131	34	237	201	438





# 硬式テニス部

## あります

顧問 重立 正宏

「秦高に硬式テニス部があるんですか?」

「たまたまお会いした秦野高校を卒業された方に、私が現在秦野高校で硬式テニス部の顧問をしている事を申し上げると、決まっております。」

硬式テニス部も同好会時代を含めると、十年目を迎えました。

# こんにちは

大きな成績を残していませんので目立ませんが、秦野高校の歴史の中の七分の一を共に歩ませて頂いております。

現在は男子三十四人、女子二十七人の部員がいます。学校のテニスコートは二面しかなく主に軟式



大江工業テニスコートにて

のため、思うように練習が出来ないのが現実です。そのような中、昨年度の北相地区大会では、男女とも団体戦ベスト8に入りました。男子は個人戦

でも準優勝(山口直恭)という成績を取っております。

北相地区には硬式テニス部のある高校が四十校あります。私立のほとんどの学校はきれいなコート

を何面か持っていますし、公立高校でも秦野曽屋高校のようにハードコートが四面もある学校や、弥栄高校のようにオムニコートを持つて

いる学校があります。そのような高校と対戦しての成績です。まずまずの結果と言え

ると思います。

この度の70周年記念事業の一つに球技場の整備を入れて頂き、ありがとうございました。おかげで学校のテニスコートが三面になります。これで校内でも活動できると、部員一同喜んでおります。

本当にありがとうございます。

皆様のご恩に感謝し、それに応えるよう、また、同窓の皆様が秦野高校の硬式テニス部を知って頂けるよう、今後も練習に励んで行きたいと思っております。

## 今年のかかるた部

顧問 藤城 頼子

愛好会から出発したかるた部も今年で六年目を迎えました。現在部員は八名。相変わらず小さな部活ですが、創部当初の情熱そのまま頑張っております。

昨年春スタートした時、二年生はわずかに一名。これで夏に三年が引退してしまつたらどうなるのだろう。いさか不安になりましたが、幸いなことに一年生が三人それぞれ個性豊かで、熱意あふれる人達が入部し、息を吹き返しました。しかもさらに幸いだつたのは、元クイーンの今村美智子さんが秦高かるた部の指導を引き受けてくださったことです。今村さんは伊勢原で「みちのく会」というかるたの会を主催していらつしやいますが、生徒達は週一度こちらにも参加して、練習を積んでいま

す。

昨年は二、三年が少なかったこともあって、部として全国大会に出場することはできませんでしたが、個人としては力量のある生徒が居り、夏には全国高等学校文化連盟の大会に神奈川県代表選手として、三年の瀬戸義仁と二年の星野敬三が出場しました。予選では二人がそろつて勝ち星をあげ、強豪大阪を制して決勝進出を果たしました。これは前年に次ぐ快挙です。しかもこの活躍により、94年の星野芳子につづいて、瀬戸も卒業式で広知賞をいただくことができました。

今年も星野は代表選手として夏の大会に出場します。また二年生達もあと一歩という所まできています。

今は近江神宮で行われるもう一つの全国大会をめざして、練習に励んでいます。このメンバーから、三年ぶりに部として、全国大会に出場することも夢ではない、小さいながら、楽しみながら部活です。

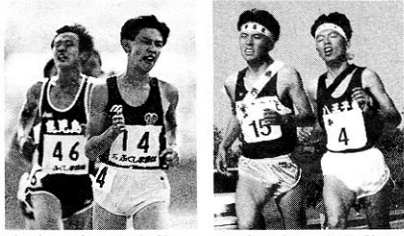


# 母校から

## 陸上競技部 伝統復活！ 関東高校駅伝 男女出場

顧問 内藤 篤史

まさかの男女7位。あれから一年、伝統復活を誓い一丸となつて頑張つてきた。予選会では、男子4位、女子1位の通過。ゼッケン10番と7番記録的には4分の溝を開けられた男子。不可能に思えた。1区高知は8番。3区まで7位。イヤなものが脳裏をかすめた。が、4区岡本の区間賞。波に乗った。アンカー村瀬が大仏橋を渡り歓喜がこだまする。男女そろつてのアベック入賞だ。夢が現実となった。グラウンド作り、挨拶する事から始めた素人軍団の努力の結晶だ。現有部員70名。誰もが未知なる可能性を秘めている。“走る”ことへの情熱”を持ち続け、夢実現に向け力走する部員達に心から感謝したい。



福島国体 岡本選手 関東駅伝 今井選手

●団体県予選 (学年別) 学年

- 400m 5位 大貫出和 ①
- 3000m 1位 岡本建一 ①
- 3000m 5位 西中山宏 ①
- 400mH 4位 関野雅弘 ②
- 200m 5位 山口佐知子 ①
- 800m 2位 堀籠美紗 ①
- 800m 6位 加藤由美 ①
- 1000mH 5位 成田陽子 ①

●県高校総体

- 1500m 6位 田村裕介 ③
- 3000m 7位 山口宙子 ②
- 1600mR 8位 遠藤③河又③

●県高校新人戦

- 400m 6位 関野雅弘 ②
- 400m 8位 山口佐知子 ①
- 3000m 5位 山口宙子 ②

●福島国体出場 岡本建一

●高知雄哉 (愛川中原) ⑧

●今井修吾 (成瀬) ⑭

●岡本建一 (岡本) ①

●阿由葉勝 (成瀬) ③

●西中山宏 (洪沢) ④

●村瀬浩二 (金旭) ⑧

●女子 第5位 学 区間

1区 山口宙子 ② (中井) ⑥

2区 堀籠美紗 ① (松浪) ⑤

3区 下川美希 ② (二宮西) ⑤

4区 加藤由美 ① (洪沢) ④

5区 渡辺ひろみ ② (山北) ④

## 昔はフランク、今は吹奏楽部と呼んで、

顧問 田中正博

現在、日本の吹奏楽はその数、質共に世界のトップレベルにあると言われていいます。ここ数十年来

発展を続けて来た各高校の吹奏楽部も、この数年間入部者が減り活動もや、下降気味と聞きます。そうした中で奏高の吹奏楽部は健在です。部員数は三年生30名、二年生14名、一年生24名、計68名

で全員が一堂に会すると、音楽室は寿司詰め状態となります。放課後の練習は音楽室に加えて三年生の各教室と特別教室を借りてパート(楽器)別に行なっています。

十数年前までは夜の8時近くまで練習していた時期もあつたようですが、現在は6時30分下校、特別口でも7時過ぎには下校に向かいます。昔より練習時間が減つた分

レベルダウンはいたし方ありませんが、部員は音楽を楽しみつつ、充実した活動をこなしています。一昨年、部の中核を成す2年生

の約半数が退部するという部内の嵐があり、残つた6名で新役員を再編成し、大変な頑張りで部内を建て直し、現三年生にうまく引き継がれました。

年間の活動は、入学式での演奏に始まり、夏のコンクール、昨年は銀賞、吹奏楽フェスティバル、秋のアンサンブル・コンテスト

(金賞)、くす葉学園訪問演奏、卒業式、3月の定期演奏会と、盛り沢山ですが、顧問として誇りに思えることは、部員全員が生き生き

として熱心によく練習することに加え、部内の組織作りから各行事の企画・運営まで、役員を中心として部員が自主的に活動している

点です。ところで、プラスチックのプラスチックとは、管楽器(リッドパ

類)のことですので、吹奏楽部とお呼び下さい。同窓会からはいつも格別のご支援をいただいておりますが、70周年を機に大型楽器の

購入にご援助賜りますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

## 同期会だより

### 益々盛大な広四会

秦高四期卒業の仲間達です。現  
在隔年毎に開催されている、同窓  
会を今年も箱根の山が縁につつま  
れ、早川の清流に、心身ともに壮  
快になったところで五月二十一日  
(火) 塔の沢一の湯で恩師の方々  
四名をご招待して、総勢六十名で  
盛大に開宴致しました。

今回は持廻り当番幹事として、  
伊勢原地区が担当しました。仕事  
を離れた人達が大半で毎日ゴー  
ルデンウィークだそうで、宴たけ  
なわになると広いホールはいつの  
間にか五く六名のグループが車座  
になり、それぞれ昔話しに花を咲  
かせ、旧交を暖めている。賑かに  
宴のなかにひたっている。過去を  
ふりかえり思い出話と今現在の生  
活振り、健康に対する不安等で将  
来の夢などはあまり聞かれなかつ

たようですが、これからは余り気  
張らずに泰然自若「上善は水の如  
し」これが最善かと思われます。

初めでの出席者もあれば余りの変  
わりようで帰るまで名前が判らな  
かった人も数人いました。縦割社  
会よりようやくよく抜け出し、横一線  
の同窓会では遠慮、気兼ね一切をな  
くしての一夜は実に楽しいもので  
した。しかしこの二年間で九名の  
方々が鬼籍に入られ以後年々増え  
るものと思いますが、ご自愛のほ  
どを。来た時はヤーヤーヤーと懐  
かしい顔であったが帰りは一人去  
り二人去りして一抹のさびしさを  
感じました。帰途につかれた一人  
一人の背中に次回の再会まで病氣  
などをせず元気な顔をみせて欲し  
いと祈らずにはいられない、こう  
いう気持になる私も才をとつたも  
のだと苦笑する次第。

幹事さんよくやつたご苦労様の  
一言が無上の幸せと感じ満足して  
足どりも軽く帰途につく事が出来  
ました。次回は秦野地区が幹事で

す。皆様絶大なる協力をお願い致  
します。有難うございました。

幹事・小野田久男(高4回)



## 第二回

### 大山会から

平成八年正月十三日大山はやみ

荘で新年会をかねて、第二回の大  
山会が催された。集まるメンバ  
ーは十三人。我々の卒業年次は昭和  
二十七年高四回の卒業であるが、

学校に在学したのは六年という変  
わつた経歴を持っている。

少々説明をさせてもらう。入学  
したのは県立秦野中学校だったが  
それが中学二年のときに六・三・  
三制の学制改革で県立秦野高校に  
なつてしまった。我々はその間の  
過渡的な措置で秦野高校の併設中  
学生として残りの二年を過ごし高  
校生となつた。これは高校二年に  
なるまで下級生がいなかったとい  
うことで現在では話しても分  
かつてもらいにくい。いわば旧制  
中学に入学してから新制高校に変  
わる最後の改革の世代であつた。

この中で多感な時代をすごした  
我々は、六年間を畑畑が丘のど  
かな自然の中にすつぽりと包みこ  
まれて育つた。毎日顔を合わせる  
同期生はあるいは兄弟のようであ  
つたかもしれない。

四十年余の時間がすぎて、みん  
なが還暦・定年という同ライン  
に立つたとき、旧友を想うのは自  
然な成り行きであろう。卒業以来

の顔も名乗り合つてみれば昔の顔  
がオーバラップして互いに四十年  
の風雪に耐えた男の顔がそこにあ  
る。話をしたり、カラオケでノド  
のご披露もあつたりして四時間を  
楽しむことが出来た。

はやみ荘は青木先生のお宅であ  
る。帰りがけに握つた白髪の師の  
手は柔らかくあたたかだつた。

大山の冬の日暮れは早い。どう  
か皆さん再会まで寄る年波にご自  
愛あらんことを。

田中米昭(高4回)



## 醸金に一段のご協力を！

70周年記念事業醸金 目標額 **2,500万円**

平成8年5月31日現在 **1,700万円到達**

- ▼同窓生の皆様、何卒一段のご協力をお願い申し上げます。  
一口 2,000円です。一口以上お願いできれば幸いです。
- ▼事務処理の関係で振替用紙はすでに醸金された方にも同封しておりますが、悪しからずご了承ください。

## 創立70周年記念日【10月29日】

記念式典 平成**8**年**10**月**25**日(金)  
午前10:00から

- (1) 式典
- (2) 記念演奏会 (1) 秦野高校吹奏楽部  
(2) チェロ独奏(卒業生)  
(3) 全員合唱「大地讃頌」
- (3) 祝賀会(学校、PTA、同窓会合同)

写真左右は秦中・秦高(昭和10年~35年頃)



平成8年



奈珂中時代(昭和9年頃)



奈珂中開校式  
(大正15年10月29日)

Seitd

PHOTO STUDIO

(有)セイタ写真館

代表取締役 清田 一雄(高校10回)

伊勢原市伊勢原3-1-4

☎0463(95)0043

# 校内幹事並びに 客員異動のお知らせ

平成八年四月一日付をもって次の先生方が異動いたしました。

校内幹事として会報『広陵』編集にご尽力頂きました武井達夫先生(4年・社会)が県立公文書館にご栄転になりました。

客員としては事務長の熊沢實先生(2年)、副主幹の磯崎藤江先生(32年7か月、司書)が、それぞれ定年退職されました。お疲れさまでした。

また、森谷準司先生(14年、国語)が、大森野高校へ、辻本美先生(12年、社会)が湯河原高校へ、伊藤博先生(10年、理科)が、神田高校へ、主査の加藤茂先生(3年)が小田原城東高校へ、それぞれ栄転されました。  
今後のますますのご健勝と活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 物故者

慎んでお悔みを申し上げます。

【客員】

金子 英二(第十代校長)

【会員】

- 中3 加藤 頼章
- 中4 間宮 清
- 中7 山本 温也
- 中7 成瀬 文雄
- 中12 込山 恒明
- 中13 夏刈 正雄
- 中13 村沢与四郎
- 中15 小沢 寛
- 中18 高橋 保
- 中18 安田 喜有
- 中18 関野 勝
- 中19 大塚 俊雄
- 併2 菱山 武信
- 高1 上原 徳次
- 高3 井上 武治
- 高3 尾沢誠一郎

- 高5 鈴木 政幸
- 高6 青木 茂
- 高19 古宮 照夫
- 高23 船木 肇
- 高45 本山 裕之

ご冥福をお祈り致します。

## 会員名簿について

70周年記念事業の一つとして、会員名簿を発行します。(例)ラト(旧社名日本名簿出版)にこの仕事を委嘱し一年程前から準備して来ました。会員名簿委員会の方々、各卒期、職場の幹事、多くの会員の方々のご協力ありがとうございました。会員数、約一八八〇〇名、判明者一六九〇〇名、判明率90%です。七月二十二日発行の予定ですので間もなくお手もとに届くと思います。価格は四五〇〇円(送料含む)で前回(平成三年)と同じです。お求めの方は母校事務局にお申し込み下さい。名簿の功罪が云々される昨今です。

ご注意下さい。今回は在校生名簿は記載しないことにしました。ご住所等変わられた方は母校にぜひお知らせ下さい。

その都度データを訂正し、一人でも多くの方に「広陵」が届くように努めています。よろしくお願ひ申し上げます。(F)

原稿をお寄せ下さい。同期会・クラス会だより、近況報告など、原稿を七〇〇字以内でお寄せ下さい。

送付先〒257 秦野市下大槻一三  
秦野高等学校内  
同窓会会報委員会宛

## 編集後記

70周年記念の年。学校・PTA・同窓会三者全力で準備を進めている。昨年までのベテラン編集者T・Tは県立公文書館の研究員として、古文書等の専門分野に携わることになった。後任に同期のY.Aを迎え、入稿日ぎりぎりではあったが編集を終えた。準備を始めた頃、芽吹いたばかりであったプラタナスや銀杏が、今は大きな緑陰をつくっている。同窓生の皆様のご活躍を祈ります。(I)

## 秦野高校同窓会 会報委員会

〒257 秦野市下大槻一三番地  
県立秦野高等学校内

発行責任者 小泉 功(中16回)  
編集責任者 石井郷二(高7回)  
安藤好定(高26回)

電話 〇四六三 〇一四二一〇二二  
振替口座 〇〇二〇一八一三六八九

城所 全(高21回)

# 70周年記念事業実行委員

## 【施設整備委員会】

榎本圭治(高2)・委員長 矢作典西(中1併)・副委員長 柳田敬雄(中12)・相談役 綾部義司(中9) 佐野元嗣(中10) 久永弥三郎(中14) 加藤康造(中14) 高橋登(中19後) 高橋勝孝(中20) 桐山貞夫(中1併) 中村通雄(中1併) 松本正司(高4) 芦川正(高6) 永山昭昭(高6) 相原清(高7) 小野力(高8) 飯尾美甫(高8) 北村忠男(高9) 神保啓廣(高11) 藤巻久枝(高12) 関野節郎(高17) 小泉嵐(高18) 出縄高昭(高19) 山本長愛(高20) 三嶽雄(高26) 佐野均(高31) 小野智康(高38) 城所全(高21)・校内幹事 片岡世喜(高23)・校内幹事

## 【同窓会林記念碑】

久保奇男(高11) 委員長 原由夫(高4)・副委員長 苅笠光男(高16)・副委員長 伊藤昌治(中17)・相談役 小泉洋司(中10) 渡辺元彦(中11) 鷲尾隆(中13) 青島麟(中16) 洪原正(高11) 久保寺雄(高18) 新宮淳(高22) 石川秀雄(高34) 小林博之(高37) 大館裕章(高40) 安藤好定(高26)

## 【同窓会林整備】

加藤登次(中19前) 委員長 星野庄司(高6)・副委員長 半澤文子(高8)・副委員長 山川彰藏(中17)・相談役 相原伊三夫(中11) 金子尚(中12) 安島融(中14) 小泉功(中16) 多ヶ谷隆(中17) 森茂(中1併) 加藤武雄(高3) 内藤久徳(高4) 井上朝紀(高9) 渡邊ゆき子(高14) 込山武(高15) 新倉啓一(高16) 村上公和(高18) 飯田松男(高21) 栗飯原勝男(高28) 深谷和男(高32) 小清水哲郎(高39) 柳川一朗(高1) 安藤好定(高26)・校内幹事

## 【会員名簿委員会】

関野男(中9)・委員長 小林充(高5)・副委員長 内藤優(高6)・副委員長 榎本節子(高7)・副委員長 横山清太郎(中1併)・相談役 石井喜三郎(中5) 齊藤徳二(中11) 長谷川晴一(中13) 佐野長治(中14) 佐草政勝(中16) 大館誠至(中18) 森茂(中18) 高橋旭(高1) 和田大(高3) 内藤正徳(高6) 佐野秀哉(高9) 栢沼男(高10) 岩田一(高18) 北村輝夫(高24) 稲毛義博(高27) 植田穂(高41) 平井隆行(高44) 古部三郎(高7) 校内幹事 田中洋一(高11)・校内幹事

## 【資料収集委員会】

石塚秀雄(中10) 委員長 深田源次(中21)・副委員長 須山喜一(中7)・相談役 湯沢昇平(中3) 西野茂次(中5) 関野勝(中18) 坪井正(中19後) 二階堂博史(中20) 和田正毅(高3) 清田幸宏(高4) 吉川秀一(高5) 添田傳平(高6) 高橋敏男(高8) 藤間大勝(高9) 伊奈美恵子(高12) 三川昭徳(高14) 竹久保忠幸(高17) 佐野友保(高18) 飯沼登(高25) 石井利幸(高45) 石井郷二(高7)・校内幹事 内藤篤史(高36)・校内幹事 小泉広澄(高17)・校内幹事

## 【会計委員会】

杉山健(中7) 委員長 青木利之(高4)・副委員長 関操(高4)・副委員長 金子尚(中12)・相談役 中村通雄(中1併) 能藤斐雄(中6) 原晟(中10) 柏木文夫(中12) 渋谷寧(中16) 大塚俊雄(中19前) 内藤美彦(高4) 賀川義光(高6) 大庭豊(高7) 草山弘道(高10) 北村紀男(高11) 山本尊史(高11) 相澤征吉(高12) 石原一雄(高12) 小林則之(高12) 梅沢大(高13) 上野勝(高15) 関恒久(高19) 石川聡(高23)・校内幹事 重立正宏(高30)・校内幹事

## 【式典委員会】

浅田忠男(高6) 委員長 畑野公保(高7)・副委員長 梅原福司(中12)・相談役 高多実(高3)・相談役 三杉繁寿(中8) 相原豊久(中9) 矢島昭治(中17) 松永幸夫(中18) 山田重雄(中21) 原出正志(高2) 原邦夫(高5) 小川常子(高8) 安池功(高10) 相原省三(高11) 瓜本英雄(高13) 大沢秀男(高14) 大川要(高17) 鈴木子守氏(高18) 重田光男(高19) 高橋則一(高23) 石川千秋(高29) 阿部正次(高36) 佐藤寿也(高43) 須山喜一(中7) 中尾達一(高35) 靜裕司(高19) 塚本誠(高33)・校内幹事 高橋智之(高33)・校内幹事

## 【会計監査委員会】

高橋繁(中15) 委員長 小西登(中10)・副委員長 唐津祥也(中12) 副委員長 柳川一朗(高1)・相談役 臼井武元(中7) 高橋徳治(中7) 廣澤富正(中9) 高橋和男(中18) 石井不二男(高3) 岩崎武(高6) 小清水子工子(高7) 横山清太郎(中1併) 小泉広澄(高17)・校内幹事

# 70周年記念事業費

## 醸金者名簿

(平成8年5月31日現在)

卒業期・口数・氏名・(口二、〇〇〇円)

総件数 三、三四八件

八、六二〇口

合計金額 一七、二四〇、〇〇〇円

爪	吉	山	土	栗	城	加	石	山	田	新	茅	芦	伊													
本	田	崎	屋	原	所	藤	塚	口	中	倉	沼	川	奈													
正	英	金	和	栄	武	頼	富	一	義	保	昇	豊														
一	二	司	夫	一	夫	章	士	夫	弘	同	次	三	蔵													
1	5	25	2	3	1	15	1	2	1	50	10	1	20													
西	中	戸	露	田	神	遠	宇	飯	清	和	鈴	栗	小	青	相											
野	野	倉	木	中	崎	藤	山	田	水	田	木	原	沢	木	原											
茂	誠	豊	典	高	武	節	兼	福	平	成	照	成	照	福	佐											
次	一	三	明	臣	薫	康	夫	良	郎	正	蔵	郎	徳	福	佐											
6	35	5	5	5	3	3	5	2	3	2	50	2	10	5	1											
鳥	白	飯	守	市	能	水	鎮	添	木	加	富	市	関	山	水											
越	井	沼	屋	川	條	島	目	田	下	藤	田	川	本	本	島											
卓	武	寿	正	斐	定	克	菊	慰	忠	宗	一	宗	一	雄	次											
二	元	夫	毅	雄	雄	亮	登	夫	哉	雄	彦	雄	一	一	範											
2	10	1	1	5	25	3	4	2	1	1	1	5	1	25	5											
青	相	山	山	藤	武	斎	大	市	石	綾	相	三	原	津	曾	瀬	稻	青	加	中	高	須	杉	齐		
木	原	崎	口	沢	藤	久	保	川	原	部	原	杉	原	田	我	戸	垣	木	中	高	島	橋	山	山	藤	
正	好	隆	家	清	芳	甚	政	桐	公	義	豊	繁	一	辰	廉	正	頭	清	政	德	喜					
雄	夫	重	郷	治	郎	三	房	雄	義	司	久	寿	雄	雄	郎	吾	之	介	治	晃	元	治	一	健	豊	
5	1	6	3	6	1	25	1	1	25	5	5	5	2	1	45	25	5	5	4	10	150	200	15	3		
古	添	齋	相	桐	尾	小	井	石	見	告	藤	平	平	原	高	須	洪	佐	佐	小	小	吉	川	稻	石	池
谷	田	藤	原	生	登	川	上	井	留	原	井	之	内	田	橋	薰	康	康	元	洋	三	秀	周	田	正	
虎	幸	德	伊	英	康	常	棟	祺	聡	萬	郎	実	博	晟	二	夫	義	次	嗣	登	司	実	博	郎	雄	正
2	1	15	5	1	2	1	2	5	25	2	1	5	6	10	5	7	5	10	1	5	4	1	5	2	10	1
浜	石	柳	諸	森	村	福	高	高	関	杉	杉	重	酒	込	唐	金	柏	遠	梅	市	石	飯	横	三	古	
田	川	下	星	田	上	山	橋	橋	野	崎	山	田	井	山	津	子	木	藤	原	川	田	田	山	竹	屋	
勝	甚	金	久	嘉	長	善	保	昌	光	進			恒	祥	文	豊	福	正	正	三	弥					
弥	吉	之	晴	一	世	雄	夫	久	世	暘	淑	尊	持	明	也	尚	夫	治	司	明	次	男	八	俊	弘	
10	5	5	1	1	1	2	4	3	2	2	2	4	1	1	10	30	10	3	50	3	5	1	5	2	3	
今	伊	石	石	相	鷲	与	椎	加	村	村	水	真	福	原	原	服	夏	高	高	鈴	小	高	大	榎	杉	井
井	藤	黒	井	原	尾	野	野	藤	田	澤	上	壁	岡	田	部	刘	菊	橋	木	清	水	梨	庭	原	山	出
正	芳	光				秀	好	禎	與	四	松	俊	勝	興	淳	正	保	政	宗	廣	利	貞	茂	二	良	
男	司	孝	清	雄	隆	忍	男	男	志	郎	逸	雄	一	嘉	三	郎	雄	夫	夫	健	二	司	夫	夫	良	
2	2	1	5	3	5	3	1	2	2	5	2	3	5	5	5	10	10	2	2	1	2	4	3	5	1	

内石石青相<sub>中</sub>水加矢松森宮古古久野西杉須菅清高川川上鎌生遠  
 田原田木原<sub>15</sub>野藤野岡 本屋瀬永川山山田沼水橋口口村田沼藤  
 貞正有忠敏 一康武豊秀信 弥<sub>三</sub>正 成幸 博玉相一敏  
 雄三德治夫 二造雄治孝乃宰勲郎夫勲一男正進勉正郎模彦夫夫  
 1 25 1 5 3 1 15 6 5 4 5 2 1 15 1 75 15 5 5 5 2 1 3 25 1 1 2

大大白岩齋磯青<sub>中</sub>山河長長長露土高青須杉劍北加加小蓑大梅梅  
 久保井井田藤村島<sub>16</sub>崎合川嶋崎木屋橋木藤山持村藤藤沢島木本原  
 良 和俊 常敬文喜 正照 道誠義 勝 武喬玄芳  
 平晃彦一洋清馨 有次雄一崇治久繁宏一雄守二公慧寛夫明正夫  
 3 2 6 5 1 25 5 3 3 2 6 1 1 1 15 3 1 5 1 10 1 5 10 5 05 2 5

草杉相山宮三前古菱原二西永中露高高瀬鈴重佐小小小小小熊川  
 柳山原本永浦井谷山 宮山井村木橋橋戸木田草卷林水泉泉沢瀬  
 達基登行一秀光愛十敏有良定緑健謙久則正政卓 朋昭 義  
 実雄次三雄夫之清民一朗二性男郎雄吉雄雄治勝司幸介二功毅雄  
 5 10 1 2 3 4 2 1 25 5 25 5 5 5 1 2 3 1 10 5 5 5 1 2 2 25 5 5

曾瀬瀬陶白多古小草木川川柏尾正今伊関池飯相相相<sub>中</sub>高洩仲中  
 我戸戸山井谷宮島山間崎口木登木井藤 田島原原原<sub>17</sub>山谷山野  
 昭良 辰越 次 義昭正祥弘泰国忠昌賢 寅孝昭儀 三 和  
 造平茂雄嶺隆郎光典一美有芳夫雄一治造穰雄久二一 朗寧男寿  
 25 6 1 5 05 3 5 5 5 5 25 1 1 2 1 5 50 1 1 5 1 5 5 5 5 25 10

相<sub>中</sub>沼鈴小白安柳鈴横横横柳矢諸森武水松古平原萩山内鳥藤土  
 原<sub>18</sub>田木林井院川木山山溝川島星谷藤島本谷田 原川藤羽間屋  
 忠 瑞和好英虎三英久源満敏昭 富 和悦保三 寿彰邦光春宣  
 一 穂雄雄治雄郎郎男郎彦雄治孝造護<sub>三</sub>雄夫郎正郎藏彦忍雄夫  
 1 4 10 5 1 3 5 1 2 5 3 5 5 3 1 3 5 10 2 1 1 1 10 10 3 5 1

高高高瀬関鈴杉坂酒小熊熊柏尾松小大大大大及遠猪伊井伊綾安居  
 橋橋橋戸野木山間井島沢坂木上永川森館久木川藤俣奈沢沢部院  
 和 靖 信 弘茂八卓照三幸義茂誠良茂典忠直昭忠 昭惠  
 保男巖之勝勁雄博治行郎士雄男夫幸一至允一久男一三男章三龍  
 1 25 3 1 5 5 3 1 3 1 2 2 1 1 10 1 1 2 5 1 5 2 1 1 1 1 5 10

辻下嶋笹酒小熊小奥岡大馬石<sub>中</sub>山鳥鷲加安森宮水古日端原野加  
 本沢津尾井宮沢沢津本塚鳥井<sub>19</sub>田海尾藤田 部島谷渡山 地藤  
 高正保孝敏弘昭和惣俊 俊 浩信昭一喜 盈敏利幸昭敏 英  
 馨夫晴次祐克雄次夫郎雄巧雄 二男三夫有茂孝夫夫雄夫雄豊男  
 2 2 1 3 1 3 5 2 1 3 3 7 1 5 25 2 5 1 2 1 2 6 2 3 3 1 25

高須杉下佐小<sub>1</sub>山加奧梅猪伊市石石田相大仲村三松原曾中対高  
 橋山山沢草林川本藤津原俣藤川田井中原津 沢武本田我島木橋  
 政卓与右純 定暉 貞康 正孫秀正 登司光洋正智誠圭末正  
 登美也一造一豊省治栄實敏三豊尚司郎雄孝治彦一次光一一男寿  
 20 11 5 2 1 2 2 1 1 1 2 1 2 2 5 5 4 1 5 10 3 1 1 3 1 2 4 1

成高高高仙関杉鈴齋小<sub>1</sub>小<sub>1</sub>神加梶柏岡上岩今石石石<sub>中20</sub>三原野野坪  
 瀬部橋橋仁 本木藤宮泉部藤山木本原本井原原<sub>中20</sub>富 島川井  
 秀富誠勝玄義幸 準孝誠禎 良保耕好栄 英昭 美正正義  
 光男一孝一郎博雄正之助司一夫健孝彦一之治実明三栄 明志雄雄正  
 2 5 1 2 5 2 1 5 2 1 1 1 4 1 1 25 1 10 1 3 1 5 1 5 3 13 5

石山三平栗飯水三深長根小<sub>中21</sub>加平栗湯清水山諸森宮三高平原野二二階  
 黒田杉元原田野川田<sub>長谷川</sub>岸泉<sub>中21</sub>藤田原口水田星田永浦橋 木宮堂  
 恭重和義英悦謙哲源壯一 芳幸敏望賢 和正正政仁 久博  
 一雄章孝男郎二夫次芳夫徹 等弘男昭弘郎武夫巳次二悟繁義史  
 3 5 2 25 3 10 2 3 25 1 2 5 1 1 1 5 1 1 1 15 1 1 1 2 3 2 5

井石<sub>高1</sub>星平中杉高北大河今飯<sub>併2</sub>横三服中清水神栗<sub>併1</sub>山安三富高鈴岡  
 上原<sub>高1</sub>野井野戸橋見<sub>併2</sub>山橋部村水崎原<sub>併1</sub>本本荒田橋木本  
 移 誠利一正秀 伸明 清清秀通忠恒弘 隆利賢敏一正家  
 薫幹 治雄夫義夫順介雄男 清太郎哉夫雄造重志 彦正雄郎夫美光  
 1 5 1 20 5 1 1 2 5 2 2 15 3 1 5 1 5 1 6 10 5 5 5 2 1

志佐佐亀榎宇内一石石石石片<sub>高2</sub>柳山安諸長宅高箭鈴鈴鈴清奥上  
 村野野井本山田石原井井野<sub>高2</sub>川口池星<sub>長谷川</sub>見橋子木木水水野原  
 永幸淳一圭力 光忠初千淳 一勝正充達義 康 重 進德  
 一作一正治夫均男男男昭一靖 朗巳雄司朗平旭夫猛城雄寿造次  
 10 7 1 5 20 1 5 5 25 25 2 10 3 50 1 5 5 15 5 5 3 3 3 1 3 2 2

市石石飯大青青<sub>高3</sub>若横山山矢森村松古船原萩野根中藤高高鈴鈴  
 川田井田貫地木<sub>高3</sub>林溝本口島田上下郡津田原口岸田間橋橋野木  
 俊松<sub>併1</sub>善 俊 英益一信伊正忠義 正真賢 利初克朝誠  
 徳蔵男雄稔昇男 博男三成昭助行男長猛志郎二正仁男男己喜二  
 25 5 2 5 4 1 20 1 1 5 5 1 1 2 1 1 5 10 5 10 25 2 1 1 1 25 15

花西二手武高高高曾瀬関佐関関須末志小<sub>清水</sub>小喜加高大榎牛今  
 輪山宮川田橋橋橋橋我戸谷藤口口山藤賀水出多藤橋森津本村井  
 宏晴一貞 庄 栄節武鉄 和峰 康 榮直 順保任  
 幸雄男夫京博茂造穀昇郎夫男三完成夫脩力雄実一可弘司治志研  
 2 3 3 3 2 1 5 5 2 2 1 5 1 25 1 5 1 25 3 2 25 5 25 5 2 2 25 5



大太遠上上白植植井井石石石相相【高4】和和橫橫山山矢安宮三真人  
 野田藤原野井原木上上黒井井原原田田溝溝田崎池永杉間見  
 徳重孝 勇哲 清俊正角光昭 正 重 典七浩光幸明  
 造幸男仁寛孝治士勉次司雄蔵久八 毅大登義弘格西郎年夫一重  
 1 3 1 3 5 5 3 2 1 1 2 1 1 1 2 5 1 1 1 3 1 5 1 5 3 1 1

田高高高高瀬関清陶岸須高澤柳佐近黒久北川川加小小岡佐大大  
 代橋橋橋橋戸 田山 崎橋 川藤藤石保田村口口藤田川島野森庭  
 達丈修三 宰高 泰秀 康敏義勝哲武幸 祥久 正美圭  
 稔博夫夫二幸操宏義敦次夫明豊夫人巳男士良博男男進弘雄三清  
 5 2 1 1 5 1 2 1 6 5 5 5 2 1 10 5 5 10 2 3 3 5 1 2 3 1 5 3 1 1

吉山柳柳柳谷矢矢諸望宮松松松町古福府平原原原野中中内土田  
 田口川川川亀後後星月田本本原田郡住川瀬島 地村野藤屋中  
 正光洋忠幸昭 明 昭政直正 憲時正茂 秀由勝 明堅美 米  
 夫也一一市二 轟生守一夫重司久司政道夫正壽夫巳宏光五彦毅昭  
 7 1 3 3 1 1 2 5 1 1 3 1 2 10 1 5 1 1 3 2 20 10 1 6 5 2 5 5 5

志笹齊小小粟粟粟熊西柄川勝梶柏尾小太太梅宇飯石飯芦【高5】今渡  
 賀生藤宮林原原田坂郷子口田谷木山沢津田沢田川島井塚川井辺  
 宏幸利 道重佳 俊澄都昌武 英 明英健哲 文正 福  
 博明雄夫充忠雄史淑夫雄道策夫勇彰雄朗夫彦二郎峨男七 敏男  
 5 5 3 1 3 5 1 3 3 1 1 1 1 5 1 2 1 1 5 1 5 3 5 1 1 1 5 2

山安森三水三古二福府普関原橋橋野二富竹高高高高曾須杉志柴  
 口池谷嶽島杉谷見壽川川野 本詰村宮山内橋橋橋田我山山村野  
 淳次 三義成九一弘 邦 義昌康敬太久 照光静欣公佐博  
 一郎実郎雄幸郎男雄司清茂夫等一平光一市雄典雄昭夫一宏一精  
 2 5 1 3 1 2 3 9 3 1 1 1 10 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 2 1 8 1 1

栗栗桐吉橘菊川石賀横大福大岩岩猪石飯芦浅青青相相【高6】吉吉山  
 原原生川川池口井川尾森山木田崎俣井田川田木木原田川浦口  
 量 一孝剛清英久義達一陽 晟 久 直 忠伸繁秀美喜 秀慶光  
 平俊雄雄一幸夫恵光雄彦子茂次武二勤光正男夫美年 一一弥  
 1 5 1 5 5 2 5 1 1 10 2 5 2 10 5 5 1 1 1 2 5 1 5 2 1 5 3 2

村宮見松星古古広永内露土土多高曾添酢杉杉須神上佐佐古小  
 田川留井野谷川川山藤木屋屋田橋我田屋山田江保田野藤宮佐  
 栄 貞育庄 明太孔正和雅 彰昌保修雅 敏寿喜代 輝泰 佐  
 一勝夫美司進利郎昭徳夫久晃宏弘章平介昇宏郎一子夫司清吉清  
 1 2 2 1 3 1 1 5 5 5 1 1 2 5 1 5 5 5 5 5 2 1 2 1 1 5 1 3 1

小大須櫻宇岩小市石石石石伊池及淺相【高7】和和渡橫山矢柳望久  
 川庭館藤本佐美崎清水川田田田井沢田川田原【高7】田田辺山口作川月  
 三泰和節五寛子三福憲幸郷藤宣謙真久金則重晴  
 郎進郎子子男行子郎治正一二清吉治介清進氏雄治広佃治彰子  
 5 2 1 1 15 2 1 2 5 1 5 1 15 1 1 2 3 2 3 5 5 5 25 5 1 2 1

新猪中中藤谷武武高添関関松園鈴杉柴篠綾境小小久北柏尾尾府  
 倉俣村村間橋田口野本本田木浦崎原部清水泉田村木上上川  
 日出洋正久勝孝俊義信昌孝昭利憲昭輝照章丈庄喜代惠  
 茂夫輔賢義瀨進美章夫郎一子子弘司享夫司彦夫明浩三一司司  
 1 2 3 5 5 1 2 5 1 5 10 5 2 5 1 5 1 25 25 1 5 1 5 5 2 10 5 1

大内上今今井犬石石飯青相相相【高8】山山山諸森森見水古松原原畑  
 津山野井井上飼井井田木原原原【高8】口口口星谷留島部永野  
 正一路士信良明太松喜平八郎稔正一司茂豊夫郎子夫明保  
 雄明勲博朗義之晃朗出一守雄由郎稔正一司茂豊夫郎子夫明保  
 1 2 5 5 6 4 2 1 1 1 1 1 1 1 5 1 5 1 1 1 25 4 15 1 1 1 10

村村美三古東半半野床藤月田武高高関関鈴佐小小小  
 上上口杉谷島田澤崎枝間本中橋橋谷口木藤宮泉泉沢嶋地木野  
 義勝光光忠文節勝孝克利敏謙正米定昊秀正義武善  
 男勉治利誠明龍子子昭豊光己孝男一夫一衛雄地番男勝文夫行仁  
 10 1 2 2 1 6 2 2 5 3 2 5 6 1 18 6 3 1 1 1 4 1 2 5 1 5 1 1

川加加小山與大大櫻井市石石飯飯足足青秋相【高9】和山山山山船矢柳  
 口納藤津庭津本上川原井田田立立木元原【高9】田川本崎口越野川  
 早洋澄昌朝正俊敏德松宏孝常千良光喜代正  
 勇茂苗志勇行豊司紀実之雄実明東善猛江通介子秋雄弘子正明  
 1 1 1 1 2 6 2 1 4 1 5 1 1 25 3 1 5 1 1 3 5 2 25 1 1 2 5

高高高曾須鈴杉渋佐浅桜坂近込小小小小小栗熊熊久桐北河川  
 橋橋橋橋我藤木山谷藤見井間藤山林島泉泉泉原沢坂田山村窪口  
 美雅収伸一恒一秀安裕泰五晃英和亮堅恒昇忠芳健  
 智男俊二典明男郎夫司久一雄稔巨雄弘造浩甫治弘夫士秋史清宏一  
 17 3 1 1 2 2 1 25 3 1 1 1 3 2 10 5 2 25 5 1 2 1 3 2 1 1 1 3

金栢小小大大石伊市市飯安足【高10】渡和吉安安諸三古原長内藤武  
 野沼野沢塚津木原藤川川山藤立【高10】辺田岡池池星浦谷田長谷川藤間  
 恵榮良忠政一輝利和吉敏一直接保玄友英英美大康  
 子勇一夫雄雄夫孜男一昇忠務市衛男明肇治男苗良次夫男勝久  
 1 1 2 1 10 1 5 1 5 1 1 1 1 5 3 1 1 1 3 3 3 15 5 5 1 3 4

久保田 横山 安山 山崎 山崎 諸崎 望月 宮川 松岡 横溝 原口 原宮 林野 野二 土多 高田 関橋 鈴木 鈴木 清水 佐水 佐藤 久保 北保 村  
 忠他 敬真 政辰 諄ア 正 為勇 章光 正正 修貞 健健 昌  
 勉之 男功 士功 夫功 男渡 親子 敏章 紀智 悟男 清義 義平 夫涉 昇司 夫雄  
 3 5 1 5 1 1 1 1 3 1 5 2 2 1 5 1 1 1 1 1 6 3 5 3 5 5 1

城佐 佐近 小小 倉久 久桐 北鍛 加小 岡大 大稻 鶴石 石石 飯綾 綾秋 青相  
 田藤 藤藤 宮林 林林 寺保 寺保 山村 代藤 椋野 津館 毛飼 原田 井沼 部部 山木 原  
 秀正 一 清敏 富勝 敏 由 康 慶紀 將照 和利 省  
 明二 夫孝 宏作 明男 也雄 強一 優成 亘一 二弘 武貞 武夫 三茂 夫吉 清三  
 3 1 1 1 1 1 1 5 2 5 3 1 1 1 1 3 1 2 5 1 2 2 1 1 2 3 5 1 2 3 3 1 2

柳柳 諸宮 三水 古松 星府 普原 原野 中露 土田 多武 滝高 添関 関陶 岡鈴  
 川川 星原 嶽島 谷本 野川 川 川 川 木屋 中田 川橋 田谷 谷山 部木  
 昌勝 好 嘉 絢榮 隆 正角 三照 範洋 幹 長弘 邦東 周  
 彦正 昭栄 男貞 子次 夫靖 猛一 蔵郎 明宏 明一 美勤 生義 学昭 洋保 淳修  
 3 5 2 2 2 5 3 5 4 1 2 5 1 2 0 5 3 2 1 5 1 2 2 2 2 5 2 2 2 3

小高 草草 河川 川加 片大 大大 今稻 伊石 石荒 綾相 相相 相高 和和 山山 山山  
 泉橋 山山野 口口 藤倉 矢村 木井 本東 原上 川部 原原 澤高 田田 本田 口  
 喜長 旭通 昌一 行光 輝英 次靖 征一 宏 三 茂征 正 尊 和  
 俊郎 生熙 秋一 男武 司明 政夫 男夫 司雄 栄豊 郎孝 夫吉 義勉 史功 利  
 2 2 5 2 5 1 1 1 5 2 5 1 1 1 1 1 1 1 1 3 2 5 1 1 5 3 5 1 1 1

村宮 宮三 高古 平原 長二 西藤 月多 高高 高真 関鈴 鈴鈴 杉志 静三 小清 小清  
 山本 川杉 橋谷 井田 長谷 川宮 谷間 本本 田橋 橋梨 壁口 木木 木山 村田 野島  
 鉄敏 克澄 忠嗣 凱 正 彬義 孝真 捷和 英隆 正貞 喜代 政武 清  
 郎明 進篤 江士 夫光 裕直 浩修 幸文 一治 男明 保巴 芳治 孝照 彦子 猛勇  
 5 1 1 5 1 2 1 2 1 1 7 1 3 1 4 1 5 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 5 5 2

栗久 窪桐 城吉 川川 加龜 小尾 小川 大遠 今今 伊泉 石加 伊高 山山 森  
 田保 寺島 山所 川川 口口 藤井 澤崎 原津 藤井 井藤 谷田 藤沢 高本 口崎  
 伸 正芳 忠昭 昭正 彬義 孝真 捷和 英隆 正貞 喜代 政武 清  
 衛勇 勉稔 之郎 夫男 猛子 臣忠 剛 剛 男進 明昇 夫二 二武 夫 治治 之  
 3 2 1 5 1 5 2 5 1 2 1 5 1 2 1 1 1 5 1 1 5 1 2 1 1 1 5 5 2

山宮 水松 増古 古古 深番 原堀 原畑 萩長 戸藤 谷田 高橋 高橋 高鈴 芝佐 小吉  
 口本 上井 田谷 谷田 家田 江 原沢 田間 中橋 橋橋 橋木 木 西川  
 昭俊 一公 忠邦 正莊 茂 達 千代 逸 芳孝 芳昇 貞一 國洋 英雅  
 雄郎 之一 好義 輔男 功也 茂子 夫武 男治 稔宏 裕宏 照三 行平 男之 昭子  
 2 5 1 1 1 5 1 5 1 3 1 5 3 1 1 1 3 3 1 5 1 5 2 6 1 1 5 3 1

城吉川 梶 萩 大大 大大 笹 榎 成 浜 上 今 今 稻 石 飯 荒 安 相 相 高 渡 米 横 山  
 所 川 口 山 野 矢 塚 沢 沢 倉 本 勢 田 原 井 井 本 田 田 川 院 原 原 原 14 辺 山 溝 口  
 政 勝 茂 建 旭 啓 秀 寿 忠 玲 カ ツ 幹 一 祐 武 武 誠 尚 隆 作 和  
 二 治 夫 一 雄 明 司 男 雄 房 豊 子 子 雄 伸 滋 男 一 司 雄 一 文 夫 茂 司 夫 博  
 1 3 1 1 1 1 1 1 3 2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 5 2 1 2 1

浜 長 中 藤 谷 谷 高 高 高 旭 高 高 芹 関 須 鈴 杉 近 小 越 小 栗 栗 栗 熊 熊 久 榑  
 田 谷 川 村 間 橋 橋 橋 谷 田 井 沢 村 藤 木 山 藤 島 水 丸 原 原 原 田 沢 沢 寺  
 昌 義 国 雄 永 全 祥 幸 勝 裕 昌 雅 正 教 奉 光 三 三 臣 二 正 稔  
 昇 崇 男 彦 稔 勝 三 久 治 江 泉 男 男 彦 紘 臣 時 彦 昭 清 洋 男 郎 郎 雄 二 正 稔  
 1 5 5 1 2 1 2 5 1 1 2 2 1 3 2 5 1 2 2 2 5 1 2 1 5 1 3 1 2

今 市 磯 石 石 川 赤 相 安 相 高 米 吉 横 横 山 山 山 柳 柳 村 村 宮 三 古 古 深 平  
 井 川 崎 塚 田 口 坂 原 池 沢 15 長 川 溝 溝 口 口 口 川 泉 山 井 川 川 谷 谷 田 井  
 尚 清 信 源 直 希 勝 孝 貞 重 勝 芳 順 久 一 宗 修 武 克 英 昭 祐 光 元  
 子 助 雄 保 治 子 己 雄 夫 武 雄 巳 夫 保 一 司 雄 稔 一 司 巳 二 德 一 清 雄 子  
 2 3 4 1 1 1 2 5 1 1 1 0 5 2 1 2 1 2 1 5 2 1 3 1 5 2 1 2 1

中 中 露 武 高 関 重 坂 小 込 小 小 粟 粟 熊 桐 川 加 片 柏 小 小 尾 岡 大 大 大 内  
 谷 村 木 橋 野 田 口 室 山 嶋 澤 原 原 沢 山 口 藤 倉 木 沢 沢 崎 野 津 沢 木 山  
 武 省 健 忠 建 武 光 寶 舜 俊 耕 幹 昌 誠 秀 幹 岩 正 弘 亮  
 久 司 二 昭 夫 彰 男 司 治 武 勝 英 治 作 雄 幸 治 雄 正 彦 尚 清 雄 直 洋 信 文 三  
 0 5 1 1 1 3 1 2 2 3 2 5 1 1 3 1 2 5 1 1 1 1 1 1 1 2 5 1 1 2 1

落 押 萩 大 大 大 大 梅 上 今 石 石 石 池 飯 飯 安 和 渡 横 山 森 宮 綾 水 三 古  
 合 田 野 森 津 宅 木 野 原 井 原 垣 垣 田 山 塚 院 16 田 辺 溝 本 村 部 野 杉 谷  
 照 和 富 義 水 伸 吉 理 文 春 弘 要 經 賢 修 貞 孝 英 忠 重  
 男 夫 武 宣 帆 薰 男 俊 詮 男 男 昇 収 昇 光 悟 晃 郎 雄 治 平 夫 彦 雄 功 篤 男  
 5 1 2 1 1 1 2 5 1 5 1 2 5 3 1 5 1 1 5 1 3 1 3 3 1 5 1 1 1

巻 古 振 落 原 野 新 中 内 遠 田 池 滝 高 関 関 鈴 島 佐 小 粟 木 川 大 苧 加 柏 尾  
 島 谷 原 合 口 倉 根 藤 藤 中 谷 田 橋 野 口 木 田 野 室 山 村 口 津 籠 藤 木 上  
 孝 悦 良 和 秀 一 光 海 一 泰 守 敏 信 智 慶 修 通 昭 修 与 德 哲 英 光 昭 健 仁  
 安 望 一 女 定 義 昭 德 史 子 明 郎 一 之 治 一 明 繁 司 二 枝 治 男 男 男 広 治 郎  
 1 1 3 1 1 1 2 2 5 1 1 1 2 5 1 5 2 1 5 1 5 3 5 1 1 5 5 2 5

柏 梶 梶 小 小 小 尾 大 大 宇 上 猪 井 稻 市 伊 石 石 石 石 秋 青 相 高 横 持 室 村  
 木 山 谷 田 野 野 崎 野 木 山 野 俣 上 本 川 丹 田 塚 井 井 山 木 原 17 溝 田 端 井  
 敏 敏 通 正 健 敏 正 和 晃 耕 次 保 憲 久 芳 千 芳 章 秀 清 利 晃 良  
 明 之 夫 茂 良 一 夫 雄 男 弘 平 生 博 男 信 一 夫 敏 夫 春 久 一 雄 治 雄 善 三  
 1 1 1 1 5 2 1 3 1 6 2 5 1 1 1 1 5 1 1 0 5 2 5 8 2 1 2 1 2 5

長仕田田吉竹武高高関関陶鈴杉黒奥佐佐小小小小小黒栗加加  
 井浜辺中田井 橋橋野野山木山岩井野野水島泉泉泉泉坂原藤藤  
 栄博栄稲信幸晋三喜武節 義僖 美良一光好広 二和健 利重  
 一道一実男雄一 樹夫 一雄郎堯雄男清子夫則夫弘澄健三夫一功信行  
 10 1 2 3 2 2 1 1 1 5 5 5 1 1 1 1 2 5 25 1 10 1 5 1 1 1 1 5

相相相相<sup>高</sup>和驚吉山山山山森村村三増古藤長原原原原福能新中  
 原原原原<sup>18</sup>田尾川室田口口 松上杉田谷原 岡條倉丸  
 光 一栄 厚秀照良英利德 泰儀三 誉敏敏陽文和 正 陽憲  
 夫勉夫治 行実雄雄一行造悠夫行郎実澄恭子水雄宏章美剛男一  
 1 2 1 6 5 2 2 5 3 1 5 1 1 1 25 25 1 5 10 1 2 1 1 1 1 25 1

北冠川龜加加加梶梶小小大大大大梅今今井磯井石石石池飯安青  
 村 口井藤藤藤山谷沢津津島沢原井井上崎沢垣垣川田田藤木  
 紀光 好哲 憲 親和 雄 誠洋明規敏晃英喜 友敏秀規  
 久義洋男男正一樹夫義明次繁治一彦敬郎次夫吉勝潔勝司一行政  
 1 4 25 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 25 1 1 3 1 1 1 25 1 1 1 1 2 1 1

露土田竹高高高関鈴鈴鈴鈴杉杉清小小古小小小小山黒栗久久櫛草  
 木屋中原橋橋萩野木木木木崎崎水蔦瀬関泉泉泉田沢原寺保寺田山  
 充信賢憲敏岳松峰 耕勝光貞正 叔正広治 國裕典俊 和郁  
 実男一一雄雄見一雄通司幸良夫明清三敏長男勉雄司夫雄孝幸夫  
 1 2 5 1 1 10 1 1 1 3 2 1 2 1 1 1 2 1 2 1 1 1 3 1 22 1 2 2

吉吉横横山諸鈴村邑宮宮升真古古古平平東猪根新成中中中戸水  
 田川溝尾田星木上石戸川水壁谷谷川田井島保岸倉田山山田谷島  
 英益孝大耕新治公好治幸良光義幸俊精国 俊秀良俊冒 喜 真  
 一雄芳作治二男和弘郎彦信治幸男明郎雄登雄次明文平彰郎昇二  
 1 1 1 1 5 1 25 2 2 1 1 5 2 1 1 1 1 1 1 2 3 5 2 1 1 2 25 2

木城北北加柏岡大<sup>高</sup>大<sup>19</sup>上今猪出一石石飯飯綾綾秋高和和水渡渡  
 村所村村藤木 庭保松井股繩石田井沼田部部沢橋<sup>19</sup>田田野邊  
 道 和 久継照美光澄賢義高泰 邦次勝敏誠修春 成  
 明忠夫彰夫行男好男雄一晴昭夫茂男郎久明一二雄 稔夫晃豊宏  
 2 3 1 5 1 1 3 1 1 1 3 1 3 3 1 3 1 1 1 1 1 1 3 3 5 5 1

高高高関鈴鈴杉杉志渋柴静笹佐坂近古小河小小小桑栗原窪草桐  
 橋橋木 木木山崎村谷原 尾川間藤宮澤野泉泉泉原原 田山山  
 勝 真恒文和正 福一 裕 真昌則伸真 米義 賢政輝正  
 美男一久男忠敏力蔵男豊司繁一司雄次一繁<sup>次</sup>昭清尊一吉夫昭猛  
 1 1 2 4 1 1 3 1 1 1 2 1 3 1 1 1 1 2 1 6 1 1 1 1 1 3 1 1

吉横横山山山山矢諸森宮宮古古古府原原端永永手簡高高高高高  
 川溝溝本本本田口野星本川川谷谷川川田 山見田島浦橋橋橋橋橋  
 正 幸 進忠幸喜 克繁基 秋博 孝 国 豊照讓  
 豊浩勉隆司博治明一行男作勉己次久大二重登治隆則望一雄二茂

2 1 1 3 1 1 1 5 1 1 1 3 1 2 2 2 25 1 3 1 1 1 1 5 1 5 1 1

小石小大大大大太遠江宇白岩岩稻市市石石石三池飯飯相<sup>高</sup>渡鷺吉  
 沢原川塚津津田藤原川井田崎葉原川原田井杉田田田原<sup>20</sup>部尾田  
 由秀和 義 善治輝 栄千幹 英春敏友康 文 忠 則  
 夫雄義昭孝博久人男健互忠隆次明雄昇美雄久久夫保雄 明祐行

2 5 3 5 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 2 1 25 10 1 8 1 2 1

清島三佐笹坂阪小小小越小粟粟粟粟<sup>菜</sup>桐赤北北岸川神<sup>金</sup>加加小  
 水村宮藤生間口泉山高地泉原原原原<sup>阿</sup>田山坂村川 口山弥藤藤野  
 三良雅 正則幸倉正正順克 光正都重 年 誠 和敏正節  
 司行幸茂明生平蔵剛美三博裕男佳紀夫均人卓一忠修憲男広朗章

1 1 1 3 3 2 1 1 2 2 1 5 1 3 2 2 2 1 15 1 05 1 1 1 5 1 3 2

原原原林乘野二仁新鳥藤東谷田多高高曾鈴鈴鈴鈴鈴杉代志志  
 附口宮田倉海間条 辺田橋田我野野木木木木山田村村  
 文克清文春利元太敏敏安富幸 憲研勝耕孝正 恵 清貞  
 勝雄明茂夫雄光夫一夫昭夫雄利源秋史儀三次明允博一郎勉豊  
 四郎雄

1 1 1 2 2 3 3 1 5 4 1 1 3 1 1 25 1 1 1 2 3 4 1 3 1 1 1 1

安山相<sup>高</sup>渡渡渡吉山山柳柳柳安森森守村村三三三松本古福平比  
 藤口原<sup>21</sup>辺辺辺澤田田川川川池谷谷屋上上竹嶽嶽田莊谷田井企  
 奉 直 昭 芳信正正貞繁洋賢光好 賢和秀幸三久幸和  
 夫博之 操昇一豊司雄夫一夫夫一一秋孝茂博一雄夫則男雄男敏

1 1 1 1 1 1 2 1 5 1 2 5 5 1 2 5 2 3 1 1 1 3 3 1 5 1 5

冠加加片蔭小小小大大黄江内内内上岩今今猪井石石北石石飯  
 藤藤倉山澤沢川森塚津木藤海野田原崎井井俣上原田村川井田  
 典能 芳 光成晴一昭福敏義光宗慶康 道 良正心栄 貞松  
 夫啓正雄実孝光男夫雄造男光男仁美雄正夫博清雄明一一明員男

3 5 1 1 1 1 1 1 4 1 1 4 1 3 2 2 1 2 1 1 1 1 2 3 1 2 1 1

二成中戸露高先瀬鈴杉島沢佐笹坂小小越越小小監黒黒久桐桐北  
 宮田川川木橋崎川木本村野藤尾間松崎 卷地地泉泉物部島寺山生村  
 俊朝 雅秀文晴 太光茂芳哲友孝 伸常順 邦千和康秀雅  
 博光悟美樹男幸透源昭雄春夫治夫准治夫作実夫秋正夫雄治博茂

1 1 1 1 3 1 1 2 5 1 2 3 1 3 3 1 2 1 1 1 1 1 1 1 27 1 1 35

高22 和井橫山山向宮松滿白古古古古福府平平比原原林橋橋橋野野  
 田上山本口原本下瀬井谷谷谷木田川野田企田田 本本本田口  
 房博直 敏茂 昭貞健宗敏誠久惠正孝和正 新敏幸貞和正  
 雄之樹豐夫樹昇次司治芳男司雄一紀晴行則博治夫夫俊幸行誠  
 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 3 25 1 3 1 3 3 1 1 1 2 1

大大大江上岩岩猪猪猪市磯石石石石井井伊池飯飯淺秋青青相相  
 館保木原原崎崎俣俣俣川崎黒垣井井沢沢沢谷塚田野山柳木原原  
 道修忠多章房 茂 光 洋茂信 秀和隆孝 典義光包  
 成一弘雄雄雄澄仁久男隆隆司弘一樹雄茂一弘夫弘明修明光雄行  
 3 1 1 1 1 5 3 1 2 1 1 2 1 3 1 1 1 1 1 1 1 2 5 25 1 1 1 1 15

柴重佐近小小小早清清水小栗倉熊吉北北北北菊川金加片香小小岡大  
 田松野藤林林川水泉原田沢川村村村原池名丸藤野川沢原崎野  
 宏潤定洋正 規幸誠佳敏則敏光 秀喜敏繁弘美和忠正利健  
 志郎男一和徹好雄二郎郎之宗夫均勝義男行行彦重義明光二昇豐  
 2 3 25 5 3 1 10 3 3 05 25 1 3 2 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 3 1 1 3 15

森森村向宮三松比原長新永長烏藤露長高高園添関関鈴鈴杉菅末  
 上山越杉木企 谷川倉山嶋海間木橋橋梨田野野木木山谷政  
 秀辰利 孝 芳誠 雅和 喜福基 芳峰 英芳 和 秀  
 之美雄聰豐和仁輝治博章夫茂庫雄義清雄夫亨治夫茂彦明武學雄  
 1 1 1 2 1 1 5 2 3 1 1 1 2 2 1 10 1 1 1 2 2 3 1 1 1 3 1 1

上井稻石石石井飯綾綾青青相相高23 和若吉橫山山山山山山梁諸諸森  
 野上毛黒黒川沢田部部柳木原原 23 田野川溝田田下口口井星星田  
 伸 紀康正 孝確 泰忠一芳 寬 高和雄裕重敬義清敏  
 朗豐好夫雄聰一男滿二雄夫夫勉 博伸豐勉明茂二美夫一一隆夫  
 3 1 1 1 25 5 5 1 15 1 1 2 2 1 1 1 1 3 2 5 3 4 1 2 1 1 1

小小越越小小黒栗桐桐木木加片柏小小小小大大大大大大梅内内  
 室林光光水泉部原山生村村藤倉木野川川川川庭野津谷谷島沢海田  
 明 照 一俊敏秀 正 治基富 真直浩亞広 雅祥公一博 弘  
 男勉文武男雄夫夫肇彦均夫惠雄泉弘之一土茂守美司明隆美透道  
 1 1 3 3 1 1 1 1 1 1 3 1 25 1 2 1 3 1 1 1 3 1 1 3 1 1 3

養水三三松松古船二平金原原千竹高高高高高高高鈴志鎮佐坂小  
 島島嶽嶽下井谷木見井子 葉本橋橋橋橋橋橋田井木村目野本山  
 正正 保幹 敏克義雅達恭幸 正真 英雅善初正典 宜  
 美己勝博雄雄務肇之己雄夫夫一仁満則琴寿保二和久好美久茂忍  
 3 3 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 3 2 1 1 1 5 25 1 1 1 2 1 1 5

尾小小大大上伊石石石飯安淺淺相相相<sup>高24</sup>和若橫山山柳八森宮  
 上沢沢津沢木村東黒井井田藤見田原原原<sup>高24</sup>田野溝井口川嶋原  
 弘忠一 貴英喜邦英政聖 一伸好澄一 彰隆充 恭 雅延  
 行夫明操人二八夫明義二桂進成俊男男好 久生己勉弘悟孝彦卓  
 15 1 1 1 1 1 1 9 5 2 1 1 5 1 2 1 1 1 3 1 2 1 1 5 1 3 3 1

高瀬須鈴杉杉菅真洪小古小北小桑黒熊久久川川安加加柏小小山尾  
 橋戸藤木山本間道谷島清水坂村泉原田手寺寺部口食藤藤木小山田登  
 六 義幹義和清裕 信 真一英 利常一敏 明美津雄重正重和  
 郎健昭夫則彦光夫清一隆勉司人一努光雄夫夫豐雄重己光明賢  
 75 2 2 1 1 2 3 2 1 15 1 1 1 1 1 15 6 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 15

相<sup>高25</sup>渡渡橫橫山八諸守宮宮三増本古古藤府深原原原二西西東西  
 原<sup>高25</sup>辺辺溝尾口木星泉代川嶽水莊谷根原川澤田 宮谷海条田  
 正和優 義文 和 孝和一宏政武金光雅佳孝啓幸勝  
 敷 隆薫博昭利一出則夫猛正淳雄秀男則幸夫蔵正博己夫二一美  
 3 3 1 1 1 1 1 1 3 3 1 1 2 2 1 1 2 2 1 2 1 1 1 3 1 1 1

大大大海老内上上上荻今今今井出石石石石飯飯飯荒綾淺秋青相相  
 原津沢原田野野原野井井井上繩田川川井山山沼川部見山柳原原  
 秀喜一芳淳博治 年秀 智賀裕 信光正 斗敦耕幸 順  
 信男夫一一文朗清司夫茂明一光久三修也昭広登薫紀夫夫一夫博一  
 2 5 1 1 1 3 1 2 1 1 1 1 1 3 1 3 2 1 1 1 1 3 1 1 2 1 1 1

神新佐小小小小黒栗栗栗栗栗熊久草草吉北川川柏小小小尾大大  
 保藤藤卷川泉泉泉石原原原原原沢柳柳川村村口木野野崎庭庭  
 扶 松賢 仁隆欣 政 広純幸 和一洋和 重洋一 幹秀  
 男晃義一真生男也昇稔男誠司一弘要男郎一一潔守広二夫悟夫始  
 1 1 1 1 1 1 1 05 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 2

渡吉吉山山柳守宮宮見堀古長野野内鳥藤田多高高高瀬関関住鈴  
 部川岡口口田屋川川留尾谷川谷川口際藤海間中田橋橋梨戸野野吉木  
 英朝純 克 茂清秀真安 俊良康芳高俊秋央 勝成道孝行  
 明美一勝彦悟忠樹光雄弘行純昭一雄行義光雄巳宏文仁弘一雄勇  
 1 1 3 1 1 1 5 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 5 1 1 1 12 1 1 1 1 1

北城鍛冠河川加加柏柏風奥荻小岡大内加井安綾綾淺秋相<sup>高26</sup>和渡  
 村所代 端口藤藤木木間山野川部沢田藤上藤部部香山原<sup>高26</sup>田辺  
 重高健芳弘昭克美 誠正剛純 勝 富士純好只勝義純三 敏洋  
 薫夫治二晴一次彦幸肇司史義一靖寿正夫一定志正明夫好 文郎  
 1 1 1 3 2 1 1 1 1 1 1 5 1 1 1 1 3 2 1 1 1 15 2 5 1 1 15



永鳥坪谷武高高高相芹関関杉菅宍佐齊後小小河河小粟粟倉久北  
 山海井井木橋橋馬沢山野浦沼戸藤藤藤室林野野泉原原井田村  
 好敏正達淳義栄晴義昌刀善雄治司正隆和  
 行行孝武夫一昭覚二孝隆忠延出一則敏雄朗信介道郎二茂幸充也  
 2 1 1 3 1 3 1 3 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 5 1 1 1 1 1 1 1 1

岩今石石池飯飯安相相<sup>高</sup>山山山柳宮宮見三松松侯田府原野西南  
 田井塚黒谷沼田藤原原<sup>高</sup>田口口川川井留嶽本本野中川田尻村里  
 春直隆一正明貴智俊藤豐鉄正雅佳和辰  
 義司守淳好充成勝美功広行忍孝好徹也雄彦雄実也勝朗男己勇  
 5 1 2 15 15 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 3 25 38 1 10 1 1 1 1 1 1 1 1

高村高高土島坂小小栗桐北川川諸加柏薄柏<sup>山</sup>大大遠遠梅白植上  
 橋上橋木屋田井宮泉原生村瀬上星藤木木<sup>山</sup>田津沢藤藤原井松野  
 公哲公重一勝修一登一正健岩一恵孝一博教一信克  
 忠榮彦也彦彰勝篤優彰美一郎政彦一夫郎一義郎史行深久夫朗  
 1 6 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 10 2 1 1

横横湯山赤山山山山柳諸宮宮水諸広久八二西仁二長露谷高高  
 溝川山田澤崎口口口川伏川川野星瀬永田宮村科階沢木村橋橋  
 力正智賢敏喜浩雅俊敬清和通重幸伊慶正栄美一弘  
 孝雄計幸司雄之基由史明一美成泰彦男男<sup>佐</sup>務太剛美淳優生平文均  
 1 1 1 1 2 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 25 1 1

櫛久久桐吉川川唐金加荻大大小小内市磯磯石石井安芦<sup>高</sup>渡吉横  
 田保保山山川口口沢子藤野津館竹川川田川谷部塚井山藤川<sup>高</sup>辺野山  
 忠孝茂和勝新喜秀義光俊克敏新正敏富哲  
 稔夫智真一亘隆忍浩也司徹一聡久雄信訓和晴彦実寿治行光夫郎  
 1 1 1 1 2 5 1 1 3 1 1 2 1 2 3 1 1 1 3 1 1 25 1 15 1 1 2

星古布平平大原二中山谷竹武高高関瀬白嶋重重清齋小小粟栗国  
 谷川田井津瓶村田内井橋橋戸山津田田水藤宮林原原  
 武幸義真亨道節英浩克広正孝良雅真和経弘讓茂克勝敬  
 志弘雄一一雄朗人貢博佳則光弘洋久史一彦賢功朗光二夫美男正  
 2 1 1 1 5 1 1 2 5 1 1 1 5 1 5 1 1 1 1 3 1 1 1 2 1 1 20 1

海岩今今石石飯飯浅小<sup>高</sup>渡吉吉山山山安柳矢谷森望村宮宮三三町  
 老沢田井井塚井田見泉<sup>高</sup>辺田田本口口池川作亀松月上村川橋竹田  
 健ま公伸利久良敬英文一哲敏美和慶幸真芳和  
 篤一み彦一昌雄成子司彰彦也行伸滋誠章幸弘武弘和夫司則俊  
 2 5 5 2 1 3 1 2 1 1 1 1 3 1 2 2 3 1 1 25 2 5 1 1 1 1 1

関鈴齊権込栗国桐木吉吉河神加加加片柏小尾小落小小小大大大大  
 野木藤田山原原生幡川川野谷藤藤藤野木田上山野合澤澤平橋橋熊熊  
 和正元昭弘 幸一洋憲治和正進一宏 良 高 敦 淳 富  
 之道秀男行旭柴子也一一行孝人二也美修弘隆志充稔正子一夫誠  
 1 1 2 1 6 2 1 1 1 1 1 5 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 10 2 5 3

頼山山山安諸宮美見前佐平日原原原原宮新嶋徳露高高高高大関関  
 住田口際池星代本留田木井置田 内倉津盛木橋橋梨藤野野  
 孝篤 一永俊道 和 明雅 憲正 均ルミ勝広徹英義 芳雅秀  
 二司修也次也弘聡明裕美美誠二巳敬一子久美郎樹尚優房彦一正  
 3 1 2 1 15 2 3 1 2 3 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 3 2 1 1 1 1 1 5 1

吉吉北金柏笠岡大大大大遠榎入市磯石石石荒宮浅牧小相<sup>高30</sup>脇橋  
 川川村沢木間島森野津沢藤本江川谷部原井川川田石澤原 本  
 雅貞優正秀真 信 明孝 智 一 光靖敏永道祥郁美枝和 建  
 彦之次敏治二誠行満博洋一充隆義誠昭孝明司子幸恵子夫 悟世  
 1 1 1 2 1 1 1 1 3 1 1 1 1 3 2 1 1 2 1 5 1 2 5 1 1 1 1

藤府野野沼山田武高仙奈鈴堀杉菅渋佐佐齊小小小栗熊久桐  
 沢川田田田本本倉洞良谷木切原原谷藤々木藤山山井川泉泉原谷厚延  
 淳秀正啓明惠磨徳義伸智定久和恭和信良典 真知 雅雅勇広厚延  
 哉一人司彦子里美明夫子義也一宏弘祐子修子茂広久次文子夫  
 3 2 1 1 1 1 1 1 2 3 1 1 1 1 25 1 2 1 1 1 1 1 1 2 1 1 25 5

遠榎武井石石石飯荒小綾阿秋相<sup>高31</sup>渡渡吉横山山山山安安向宮前  
 藤本 上塚塚井沼川澤部部山原<sup>31</sup> 辺辺野山田口口口本池原代山  
 厚男子子一郎一均彦明昭一江史 弘代巳勘浩行志巳美芳明誠<sup>ゆかり</sup>  
 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 25 1 1 1 3 2 1 2 5 1 1 1 1 3 1

長鳥谷田久高須須須鈴清小小小小熊木菊川加片新小小大大遠遠  
 沢海口中田山橋藤藤藤木水町堀川島沢村池口藤野村沼津館藤  
 信裕昌博 誠和量 秀和竹 幸 宏英一浩浩順正正浩  
 徹昭章宏美徹稔一已久浩広弘郎稔博恵聡敦子彦幸美之子浩子充  
 2 1 1 5 1 5 1 1 1 3 1 1 1 5 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1

飯浅浅秋赤<sup>高32</sup>和和湯森石望村箕三水松牧秋古船福平碓原原林早  
 田沼田山羽<sup>32</sup> 田田浅田故月松輪竹下本石山谷橋岡瀬井田田 川  
 みどり 秀心裕 誠 茂智一 富美昭紀友輝洋裕雅厚正真茂孝 比呂涉  
 り理樹一紀 之尚徹弘子良清子則幸光通子子弥久彰弓樹志  
 1 2 5 1 1 2 5 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 2 1 3 1

中麦土田武高添瀬関須齊久橘川川榎加小山大榎梅橘久井伊伊磯井  
 村倉田淵 橋田戸根藤藤藤寺田口上本藤藤 康一佳活弘 隆久 宏  
 哲 秀俊浩勝光美智正 昌 和 さきなえ 紀 一郎 智弘 幸代美美智一哉洋明  
 也章虎之志也春代浩登勉幸一英 紀 一郎 智弘 幸代美美智一哉洋明

1 25 3 1 3 1 1 1 1 3 1 1 1 2 1 15 1 1 1 15 1 15 1 1 1 1 1 1 1

上井石石飯飯浅青高吉吉中山山養水水水松松真細府浜橋高渡名  
 原上井井山田井木33野川村田口島長島上本本壁谷川田本橋邊川  
 由雄康和広敏信武 正 敦 正 正 正 久 浩 晴 崇 英 光 尚 惠 庸 雅 裕  
 美子一雄久司雄雄史 一子幸芳明照行美文樹薫潔治子子進子衣之

1 1 1 1 1 2 15 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 3 1 2 3 1 1 1 1

洪佐坂佐北後小清水栗栗久久久熊木岸会神片桐岡岡大坂大大  
 谷久間本伯村藤島島泉原原野田田田田沢村本代山生本野村口館川  
 一綾博純昌以道哲 和 正 泰 正 義 淳 裕 智 正 淳 英 寿 直 香 喜 芳  
 寛樹子文子紀久子郎敦行伸司志聡明子隆子秀子子雄崇明子  
 久雄行

6 1 2 3 1 3 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 2 1 1 1 3 1 1

山森森森三升正古福府根成永富角恒谷谷高高高高関須須花下清  
 口谷田田武水本郡岡川岸田井田田岡田 橋橋橋橋野永藤上田水  
 知訓晴輝哲紀和謙久貞克 敬 直 和 一 勝 芳 三 久 敏 真 正 裕 豊  
 英和美美郎郎久一俊夫行章人実弘文之文生広正子弘二幸子明勝

1 1 3 5 1 1 2 1 1 1 1 2 1 3 1 1 1 2 2 1 1 1 1 3 1 2 1 1

熊窪大加加小山冲小大大大大吉榎江今池稻市石石飯高石松吉山山  
 沢田野藤藤田川川西塚高澤原原本井田毛川原島田34井本岡田崎  
 仁篤ま訓 昭弥勝玲美一や久俊敏 由 治 節 佳 き 誠 勇 茂  
 志人み久勉彦生則子紀哲い子夫浩浩美浩浩道勉子子 きよみ 滋 晴 人 樹

1 1 1 5 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 1 25 1 3 6 1 1

浜橋野根竹土谷谷竹竹高関須佐佐佐佐近近小小小河小清小清小栗  
 田本田倉内屋脇岡内内梨根崎藤藤藤藤々木藤藤山室林合清水水出泉原  
 和重 晓勝伸秀基将 明友正ひふみ 倫 政 一 輝 勝 幸 寿 一 誠 徹  
 孝久之修子彦之史裕俊剛仁子幸ふみ子博彦樹昭彦勝代雄郎司徹志

2 1 1 1 7 25 1 2 1 1 1 1 1 1 1 5 1 1 1 2 1 1 1 1 1 5 2 1 1

及遠岩岩岩後井石石石大安中秋青高渡吉森柳森森松松堀秋広原  
 川藤本本男藤上井井井大森藤山山木35辺田川瀬下 藤 岡 井 山 田  
 達 奈 富 敏 知 和 孝 新 和 美 佳 滋 大 陽 浩 正 明 千 厚  
 夫修美男博子久弥之一典子 則 江 子 年 剛 二 薫 一 真 己 憲 章 美 子 志 智

1 1 1 3 1 1 1 2 2 1 1 1 1 10 5 25 1 1 1 1 1 1 1 5 1 1 1 1 1

多武竹瀬陶鈴杉東德坂坂酒齊小込小草草片小尾尾岡大大大大  
 田 内戸山山山山海林永田井井藤藤室山清水山山倉田山野崎崎田類原塚木  
 孝政信章博勝留惠恵真由義正成厚俊智堅利猛憲市慎聖多  
 吉志太郎央央史勝正美子美美則弘昭子清夫美悟修誠敦司次子一代剛  
 1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 3 1 1 1

高36

和吉山山山柳柳門諸森見三前星船平原中 小 中 烏 千 田 田 水 田 多  
 田 田 田 崎 口 川 川 田 星 松 上 上 田 野 渡 野 山 山 尾 海 葉 村 中 野 中 田  
 洋 浩 直 幸 和 昭 勝 步 麻 紀 正 崇 文 勝 一 美 代 子 進 保 銳 弘 明 浩  
 仁 一 道 惠 毅 生 秀 子 雄 忠 美 子 寛 臣 広 彦 義 郎 子 一 信 期 幸 剛 美 晃 行  
 1 1 1 1 5 1 1 1 1 1 1 2 5 1 1 3 3 2 1 1 2 3 5 1 5 2 1 1 1 1

小小小小小監北小尾長岡大大大黃遠江江江江漆今板石飯安永相  
 山山山水賀泉物村又上内部塚津高木藤原原川原川垣井田中山原  
 咲邦昌和美敏正征直真久隆匡和正雅裕喜美子道旬宏  
 子郎洋弥樹剛明人寛優樹樹浩樹史芳彦亨博美己浩子学子子德  
 1 3 2 1 2 1 1 1 1

高37

相米吉横横山山矢柳村武楨牧福原畠布長飯藤手露多高高須杉  
 原山田山溝田口吹泉山藤原嶋山山広山田間嶋木田橋橋原田  
 のぞみ 和正省菜昌春高博裕実志和利玲久操利浩静高拓誉榮雄佳  
 利行吾江弘代広泰子里保昭江美子枝宏江二香広哉薫治一一  
 1 1 1 1 1 2 1 3 2 1 1 5 1 1 1 5 1 1 1 1 1 5 1 2 1 1 1 1

小小桑熊駒桐北小川片上鹿加大大大大今井井犬伊石石石安秋青  
 林泉原坂井山村林口倉村島古村村貫瀨井上上飼藤塚田田藤本木  
 恵昌恭奈雅成真具正隆悦佳崇泰示賢浩耕てるみ英敬和昭  
 美誠之子智之薫美理現史史慶孝学司弘剛恩治晃悦一治子子人  
 1 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 2 1 1 3 1 2 1 1 1 1

山山森森三見細平日原服野野名中高高高芹鈴白志志佐佐佐桜近小  
 岸内岡嶽上谷井野比野田部崎崎屋嶋橋橋沢木砂田賀藤藤藤井藤柳  
 健繁昌さち治泰雅幸達靖正健壯裕博健竜公正紀徳直啓徹  
 毅司康彦子道代美子夫司也司学郎行子久子賢幸真晴純勉太也  
 2 1 1 2 1 1 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 5 2 1 2 1 8 1 1 1 2 1 1

多高高高関陶管下土佐佐大大小加風小山岡大大大榎石安足相高驚吉  
 田橋橋橋野山沼山井藤貝塚島藤藤間山田本津津澤本田藤立原高尾岡  
 充成裕史浩麻純住京貴由健忠由智寿美良昌浩小百奈由由賢  
 夫直幸郎之茂矢一子子子子美二勝一香里江昭弘美武小合香里二  
 1 2 1 1 1 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 5 1 1 1 1 1 6 6

大太大牛岩稻阿足芦相<sup>高39</sup>和山山山三増古藤藤藤府原林長寺弦種  
 野田津山瀨葉部立川原<sup>高39</sup>田崎口口橋田谷原森川川 長谷川島卷植  
 剛朗育一哲秀和清玲千 裕勇明高俊留良正勝一德菜美裕營太  
 久子弘弘朗子子見子夏 恭子一宏広也美一美義弘明江和子 淳  
 1 1 1 1 1 1 1 1 3 1 1 1 1 2 1 2 1 1 1 2 1 5 2 1 1 1 1 1

浜島田武高田関関陶鈴鈴杉塩佐坂近古小小栗倉北菊上影尾尾大  
 山中 橋井野 山木木本川藤本藤宮林泉林田村池口井上上森  
 克 雅郁公博美孝孝康隆 進康 修英直喜範楨隆幸康靖良真俊  
 朗聡子彦俊美子茂之弘幸博一弘恵平明哉治之一興司彦子平一和  
 1 15 1 25 1 05 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 6 1 2 1 1 1 1 1 1

大岩岩井伊伊石石飯朝朝<sup>高40</sup>和柳諸望三松松松真古平平東原原林  
 越田井上奈藤川井塚倉倉<sup>高40</sup>田川星月杉本下木家谷川井島  
 亜真ひと正陽智和 敏宏啓 敦美昌和恵克久和昭秀健礼洋 亜希子 晋  
 月一とみ明子美弘浩恵之太 桂子奈宏彦美彦子 仁忠一美子  
 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 05 1 1 1 25 2 1 1

高高高高瀬瀬陶鈴鈴鈴志佐坂齋近小小久久菊川川川金落岡大大  
 橋橋橋橋島尾山木木木間藤間藤藤林林 久保田保川野口内子合村村津  
 千卓邦志一幸智恒篤正武純 いえ子 智宜聡広圭理晴健真弥一  
 昇子次子乃幸司洋一紀和傑子賢 猛隆美子子美一子美 一一加紀  
 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1

石赤<sup>高41</sup>和脇山山八守目三村武水水三三松松増牧日々原長仁中丹玉  
 井津<sup>高41</sup>田 下内木屋黒浦田藤島越杉浦村原田野野田川平村野井  
 和圭 章大剛智純紀久久英一由圭正祥多加 克 昭夕浩文 徳晶  
 明紀 太郎輔史子一男美美之行紀一篤玄江淳也寛則子和子忍人子  
 05 1 1 5 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 3 1 1 1 1 1 1 1 5 1

宮光三松平平原野西長寺坪多田武高新高白佐込越小栗桐城風小石  
 本本浦井野井 川澤沢島川田代 橋城幡藤山野泉原生所間椋田  
 ゆ直信元賢大貫直俊裕京晴小百合 壯深信和かえで 仁俊浩友理枝 正信利一  
 う子人義博哉介郎子彦子子美 合一雪明宏 志之幸 佳也枝郎琴昇  
 1 1 1 05 2 1 15 1 1 1 1 05 1 05 1 1 5 1 1 5 1 3 1 1 1 1 1 1 1

久草川加柏加々小小小落小小大久遠牛岩今石綾安居赤<sup>高42</sup>米山安守森  
 保田山口藤木美<sup>高42</sup>山田野崎野合澤川野野保藤山崎井田部 院澤<sup>高42</sup>山 山口江山田  
 修貴康 由 哲真 庸勝修暢 鑑貴聡理好真理子 敬 雄裕義純  
 督美幸一江宏敦也平篤子保司子剛之之美加美 一 博司樹宏子  
 1 1 2 1 25 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1

松松前保古古古平日原根成中中手弦種種竹高袖世白堤坂小小栗  
 本村嶋坂谷谷谷松色岸田村島嶋巻村植内橋田古井鳥入宮林原  
 賢浩義由紀美滝茂宏憲有希美隆典泰晶伊郡子司章奕輝正紀浩佳由  
 二道敏仁子保薰英樹幸あゆみ正子佳博邦海子伊都子

05 1 1 1 1 1 15 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1

乙落小大上入板石石石石池綾綾【高43】渡山山山山山山山八守室村宮  
 川合形村田澤坂田田塚川田部部辺本室中口口口岸木屋田上嶋  
 裕里智浩容雄礼惠理幸真誠康拓智岳智一博哲新拓恭香亮拓  
 美子美洋之子太奈巖一子一史也美彦康樹己也一也子織介也徹

1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 2 2 1 2 1 1 1 1 1 25 1 1 1 1 1 1 1

末清塩塩佐佐酒齊齊齊近小小香栗栗限久日吉北川川川菊金加柏  
 次水坂川藤藤井藤藤藤藤牧林西原原田保田下川村原野口箆子藤原  
 美朋昌一和穂伸慶広陽伸優浩美昌彰妹忠健美智雅  
 加拡久宏圭範英高浩修司理美子弘一美子之保吾久子人治季宏肇典

1 3 5 1 1 1 2 1 2 1

足相【高44】渡鎗山山柳柳諸三古林林名中内友寺坪坪千代谷高泉瀬鈴鈴  
 立原辺田崎山口田川星杉屋倉津川藤広島井井井村橋田戸木木  
 元成昭章みどり美理恵秀篤基真由美千清公将明順哲陽紀博望謙  
 紀明彦弘り美理恵秀篤基真由美千清公将明順哲陽紀博望謙

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 05 1 05 1 5 1 2 3 1 1 1 1 1

白重塩小小熊窪木北菊落小小大大上岩今伊伊石石木飯飯安安綾  
 瀬永田宮泉谷田内村地合田椋坪井原崎井東藤渡井澤塚塚藤藤部  
 百多 篤吉祐淳美里美尚普正容典宏英清晓道孝克紀智まり哲守  
 合子健葉史高司子穂奈香史子佳子子子之一香子和仁紀江生子也晃

1 1 1 1 1 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 6 1 2 5 1 1 1 1

木榎梅井今伊石青【高45】渡山山諸宮三三牧廣平中友鶴瀧高高杉杉白  
 内本野山井丹井木邊本口戸本塚杉野瀬嶋村廣沢澤橋橋山本幡  
 香裕雅太宏多幹公良健美秀あずさ晴雅拓裕洋英哲あかね  
 織勉美隆香一健貴仁恵雄一久司子行さ努美薫博也可行輝也

1 1

千田高高高鈴杉菅下山佐佐坂紺後小越草城川川金片小奥大大大胡  
 竈中橋橋尾木山野田藤藤【高45】邊本口戸本塚杉野瀬嶋村廣沢澤橋橋山本幡  
 博真直かおり子慎輝久彦昭恵学樹久美子紀隆美之泰真るみ一敦泰真紀  
 章真由美子慎輝久彦昭恵学樹久美子紀隆美之泰真るみ一敦泰真紀

1 3 1 1 3 2 1 4 1 1 1 5 2 1 6 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1

伊田昌子	石田祐美	飯田孝之	浅田卓也	赤澤恵聡	青木恵美	高46 吉川之秀	保井美花	村上淳二	村田二子	松田規久	牧野聡子	藤井孝子	福永武子	原陽子	原徳郎	林優子	林安奈	畠英二	橋本香美	能條成	丹波千鶴	中山剛	藤間忠良	藤貞行			
1	1	2	1	2	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	5	1	2	1	1	1	1	1	1		
杉山淳	杉本二	杉本介	白壁加子	小島一	桑原俊威	黒川裕光	栗原一郎	熊沢雄一	清沢克嘉	苅正嘉	柄大介	金子慎二	金森祥人	梶原泰愛	柏原留美	梶山麗奈	小奥山政道	大深山万希	大坪万希	遠藤美津子	内野里子	入澤暁子	猪俣由希子	井上慶彦	稲上祐一郎		
1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	
森田陽一	村野昌弘	村田亜希子	三村俊哉	南将朝	水崎崇夫	三浦幸雄	松木あかね	藤井一弘	東出幸恵	早坂知子	難波洋春	直井慶祐	内藤美穂	土井内越	塚真奈美	谷橋誠	高梨朗	高梨哲	高田弥	高桑智雅	曾雌彦	関谷直史	鈴木昭之	鈴木健之	鈴木崇久	鈴木清久	
1	3	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1
多田幸代	木村義博	太田也光	井出光	〔旧役員・その他〕	北村美由紀	三浦辰太郎	山本宏	北村和宏	穴川健太	吉川敦行	阿部剛	飯塚和泉	飯田敦子	林隆史	頭士智美	石井幸子	渡辺俊太郎	石川くりえ	柳川絵里香	佐々木愛恵	関村直美	岩瀬良平	高47 和昌浩	米山道憲	山本啓介	山口浩一	
1	2	3	1		1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	1	1	1

高橋 いずみ 1  
横浜銀行養高会 25

\*

ご協力誠にありがとうございました。  
なお、氏名、口数の誤り、また、落とし等ございましたら至急本部事務局にご連絡下さい。次号「広陵」にそれ以後の分と合わせて訂正掲載いたします。

